

水泳

月刊

72

日本水上競技聯盟機關雜誌

水 球 讀 本

水球に關する人達の必ず備ふべき書です。

—— 内 容 ——

水泳誌より拔萃編纂、新に簡易ルール及水球實施方法説明書、正しい競技を行ひ正しく審判するには本書に據らなければならない。

—— 目 的 ——

1. 初心者用、 2. 一般用、 3. 技術理論研究者用

定 價 60 錢……………送 料 共

水 泳 年 鑑

昭和十五年度版水泳人の必讀必備の最高權威の書である。

—— 内 容 ——

(1) 日本水上競技聯盟規約 (2) 同競技規約(競泳規則)飛込競技規則、水球規則 (3) 競技規程細則(競泳池公認、記録公認十傑詮衡規定、水球飛込) (4) 標準泳法 (5) 水球指導者資格檢定規則 (6) 男、女子世界記録、日本記録變遷表 (7) 日本記録 (8) オリンピック記録 (9) 水泳十傑表其他 352 頁

定 價 70 錢……………送 料 6 錢

水泳補助運動……………	定 價	25 錢
	送 料	3 錢
標準泳法……………	定 價	15 錢
	送 料	3 錢

申 込 方 法

宛 名 東京市麴町區丸ノ内二丁目二番地
丸ビル内581區

日 本 水 上 競 技 聯 盟

送 金 振替又ハ小爲替御利用ノ事
振替口座東京三九九一九

水泳

昭和十五年・第七十二號

目次

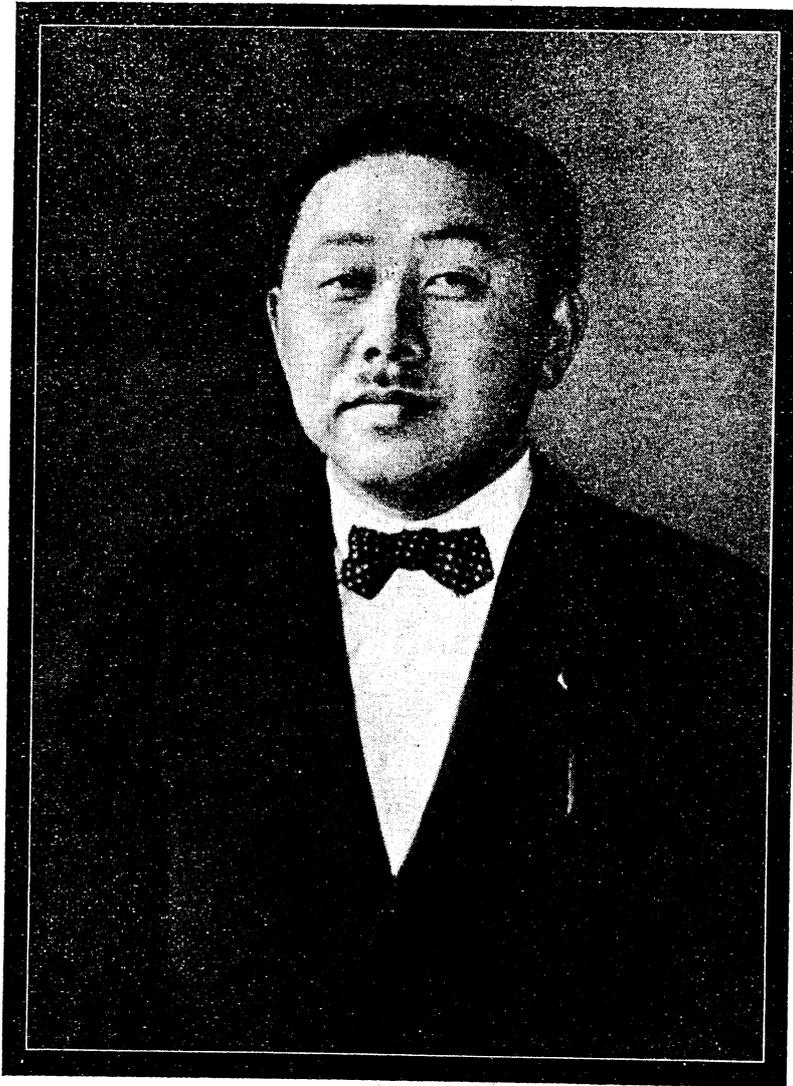
故石本巳四雄氏追悼號

石本巳四雄氏年譜	(2)
追憶	末弘巖太郎 (4)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	本田存 (4)
石本さんの追憶	堀江耕造 (5)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	齋藤亨 (6)
石本さんを憶ふ	松澤一鶴 (7)
石本さんを偲ふ	白山源三郎 (10)
追想	佐々木救 (10)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	足立祐次 (11)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	安部輝太郎 (12)
石本先生と飛込	原秀夫 (13)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	柏原政勝 (13)
石本さんを悼む	津田正夫 (14)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	辻淳 (15)
石本巳四雄君	齋藤武五郎 (16)
石本巳四雄氏の逝去を悼む	上野徳太郎 (18)
石本會長の御逝去を悼む	内藤徹 (19)
~~~~~	
水泳補助運動	醫學博士 金子魁一 ( 22 )
プールに就て	深谷俊明 ( 26 )
「陸上水泳器」の創案に就て	植田三四彦 ( 21 )
從來個人別競泳甘傑記録表	( 34 )
女子平泳所見	葉室鐵夫 ( 30 )
海外情報一束	小山賢之助 ( 32 )
聯盟關係者戦線便り	( 35 )
クロール日本字題名決定に就て	( 36 )
聯盟日誌	( 36 )

# 故石本已四雄氏追悼號

謹みて

御生前の御高恩を謝し  
御冥福を祈り奉る



日本水上競技聯盟

## 石本已四雄氏年譜 (本人手記=據ル)

橋元昌矣(天文台) } 調査  
坪井忠二(震研) }  
松澤一鶴(水聯) }

明治二六年九月一七日 小石川區竹早町九〇番地に於て出生。

明治三二年四月一日 小石川區竹早小學校に入學。

明治三五年五月 麴町區五番町一三番地陸軍次官邸に移轉。

同 年九月 一橋附屬小學校へ轉校。

明治三九年四月 高師附屬中學校へ入學。

同 年七月 房州富浦桐陰會水泳部に水泳を始め

明治四四年三月 附屬中學校を卒業。

同 年九月 第一高等學校へ入學。

大正二年六月 一高水泳部委員たり以後水泳部助手となる。

大正三年七月 一高卒業。

同 年九月 東京帝國大學理科大学實驗物理學科へ入學。

大正六年七月 帝大卒業工科大学造船學科實驗室に勤務末廣恭二博士指導船舶模型動搖實驗をなす。  
一高水泳部副師範となる。  
東京YMCA會員となり室内水泳委員となる。  
大正八年十月 三菱造船株式會社入社研究所勤務。  
大正九年八月 水府流太田派免許皆傳を受く。  
大正十年三月 佛國留學の爲出帆。  
同年十月 巴里市工業物理學校ランジュ・ヴァン教授の下に音響學實驗を開始す。  
大正十一年八月 バルカン、及びトルコ旅行巴里歸着後チブスに罹り四〇日間入院。  
大正三年二月十一日 歸朝神戸着。  
同年四月六日 現美佐緒未亡人(高安氏)と結婚、本郷五丁目四〇番地に住居を定む。  
第一回明治神宮體育大會計時主任たり。  
大正十四年二月十二日 長男眞誕生後本郷彌生町三へ轉居。  
同年十一月十四日 地震研究所創立と共に任東京帝國大學助教授、地震研究所々員。  
大正十五年一月十九日 小石川區丸山町六新築邸宅に移轉。  
昭和二年三月二十七日 長女美代子誕生。  
昭和三年七月十三日 次女佐喜子誕生。  
同年六月 理學博士の學位を授けらる。  
同年八月 任東京帝國大學教授。  
同年八月十九日 三崎臨海實驗所に於て水晶傾斜計に關し御前講演をなす。  
昭和四年六月 明治神宮體育大會再加盟に水上聯盟を代表して活躍成功す。  
昭和五年二月 明治神宮水泳場建設委員として活躍  
同年五月 極東大會日本泳法演武委員長となり成功を収む。  
同年八月 文部省を督して水泳指導講習を開始し指導要項を作る。  
昭和五年十一月 日本游泳聯盟再組織を斡旋して成らず。  
昭和六年 競泳公認規定を確立す。  
昭和七年四月九月 末廣地震研究所長永眠に付き所長事務取扱に補せらる。  
同年 NSR標準泳法を發表す。  
同年九月 東京帝國大學工學部地震學授業擔任を命ぜらる。  
同年九月 東京小學校聯盟初代會長となる。

昭和八年三月 日本學術振興會學術部第四常置委員會委員に委囑せらる。(此外委員委囑の件多數あり)  
同年四月 地震研究所長に補せらる。  
同年五月十三日 帝國學士院賞を賜る。  
同年 水泳史研究會開設委員長となる。  
同年八月二十五日 淺間火山觀測所を開設す。  
昭和九年五月 測地學委員會委員被仰付。  
同年五月 學術研究會議會員被仰付。  
同年六月 東京帝大水泳競技部長となる。  
同年九月 糖尿病にて坂口内科に入院。  
同年十月 鐵道省囑託となる。地震及地震動と鐵道構造物の關係調査に當る。  
同年十一月 和蘭皇帝よりコマンドール・オランジュ・ナツソー勳章を授與さる。  
昭和十年二月 「地震とその研究」出版。  
同年九月 淺間山火山研究所に北白川宮殿下台臨。  
昭和十一年四月十五日 日本音響學會を創立初代會長に就任す。  
同年十月 滿洲旅行。  
同年六月 陸叙高等官二等。  
競技科學研究會。  
昭和十二年四月 物理地下探查法研究會生る、音響學會總會。  
同年六月 水泳史料集成出版さる。  
同年七月 滿洲國へ出張を命ぜらる。  
同年十二月 外務省事務の囑託を命ぜらる。  
昭和十三年一月八日 歐米諸國へ出張を命ぜらる。神戸發交換教授として伊太利へ向ふ。  
同年 伊太利皇帝よりグラン・オフィシエ・クーロンヌ勳章授與さる。  
同年七月六日 米國經由歸朝。  
同年七月卅一日 中華民國へ出張を命ぜらる。  
昭和十四年二月 科學への道出版。  
昭和十四年三月二十四日 口唇手先にシビレを覺ゆ  
同年五月十四日 如水會館にて腦溢血にて倒る。續て地震研究所長依願免官、夏は東京在住死期を覺悟(原文の儘)  
昭和十五年一月三十日 腦溢血再發。  
同年二月四日 午後二時死去。享年四十八。  
同年二月五日 陸叙高等官一等叙正四位勳三等瑞寶章。  
同年二月七日 小石川白山心光寺に於て葬儀執行。

## 追憶

末弘 嚴太郎

水泳人としての石本君に関する私の記憶は、君がまだ高師附屬中學の生徒であつた時代に始まる。それから大正六年まで殆ど毎夏房州八幡の一高水泳部で君の泳ぎを見た。附屬中學の水泳部は本田存先生直傳の水府流太田派の泳法を後々まで最も忠實に稽古した水泳部であつて、自然水府流系統の泳手を數多く一高水泳部に送つてゐる。石本君も其一人であつて、晩年の君とは似てもつかないやせた體で器用に規格正しく一重伸や大拔手を泳がれた其姿を今尙はつきり思ひ出すことが出来る。その頃の一高水泳部は所謂ルネッサンス時代の末期であつて、我國在來の泳法を十分理論的に検討し盡して何時でも外來のクロール泳法を攝取し得る状態にあつた。石本君は此時代の理論的研究に最も貢獻された功勞者の一人であつて、後年君が標準泳法の制定に當つて示された優れた智識と信念とは實に此時代に培はれたものであると私は考へてゐる。

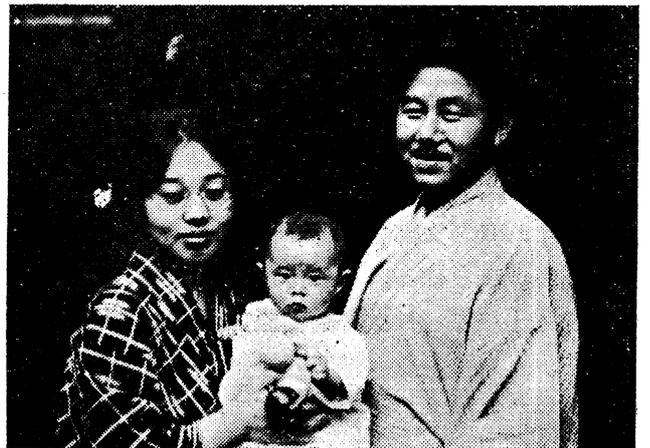
此時代に於ける君の特長を最も雄辯に物語るものとして次の事實がある。吾々の經驗上水府流の平伸神傳流の翹伸に於ける體形、殊に胸の形は非常に六かしいもので、足を煽り手先をかいてから後の伸びが旨く行くかどうかは殆ど此體形の如何に關係してゐることかが知られてゐた。そうして此事はクロールに於ける肩から胸にかけての體形とも極めて密接な關係のある事柄であつて、常識的には何となく胸を張つた方が滑べりがよさそうに思へるにも拘らず實際には寧ろ反對に猫背のやうな形になつた方がいいと言ふことが其頃既に經驗上知られてゐた。其經驗的に知られてゐた原理を理論的に證明しやうとして、當時既に大學の物理學科に在學してゐた君は一の物理學的實驗を思ひ立たれた。専門的智識をもたない私には其實験が如何にして行はれたか、又其結果がどれ程理論的價值をもつものであつたかを知らないけれども、恐らく大正六年だと思ふ、近く外國に出掛けやうとしてゐた私は實驗の結果を現はした青寫眞一枚を貰つて非常に面白いことと考へ、それを外遊の際紙入れの中に入れて三年間歐米諸國を持ち廻はつたものである。大正七年私はシカゴで初めて本格的のクロールを見た。シカゴ大學のコーチが

親切に其原理を教へてくれた。そうして一日體形のこと問題になつた際私はこの青寫眞を彼に見せたのであるが、理論の實質を彼が十分に理解したかどうかは別問題として、日本ではこんな細かいことまでも考へて泳ぎを研究してゐるのかと言つて非常に驚いてゐた。其後我國の競泳々法が驚異的發達を遂げた根本的原因が何所にあるかに付いては人によつて色々説があると思ふが、原始時代既に此種の驚くべき理論的研究があつたと言ふ事實は是非共に記して置く必要があると思ふ。

## 石本已四雄氏の逝去を悼む

本田 存

君は高師附屬中學に入學したその年の夏、房州富浦に於ける桐陰會水泳部に部員として來たときから私の教へ子の一人であつた、同水泳部は私が師範でその下に水術優秀な同校出身者が水上監督と云ふ名儀で指導に當る組織であつたので、君はそれ等の先輩から、浮くこと、泳ぐことと云ふ風に段々に教導されて二年、三年と上級に進むにつれ、技も次第に上達して卒業間際の年には最上級に、更に翌年先輩として來たときに得業免狀を與へた程、順調に進歩された、性質は温順で學友などと争つたと云ふやふなことは耳にしなかつた、身體はどちらかと云ふと瘦形で、晩年見るやふなあんな大きくなれるものと思へなかつた程だ。私は君の長兄惠吉君も、次



ありし日の石本氏夫妻と長男眞さん大正十四年七月

兄の憲二君も、末弟の五雄君も皆な附屬中學で教へたからその性質もよく知つて居るが、言動は惠吉君によく似て、温厚で憲二君や五雄君のやふな潑刺たる元氣者ではなかつたが、心はなかなか強かつた方

だ。水泳部では別段これとは云ふ程目に觸れ、記憶に残る程の行動は思ひ出さないが、裸生活であるから人々の固性はよく分る。一言にして評せば温順の少年であつたと云ふことが蓋し適評であると思ふ。泳力の方は漸次進歩したが一番苦手であつたのが跳込法で、これには随分閉口したらしかつた。桐陰會水泳部の進級規定には泳方、潜水、跳込及泳力の強弱等四種目が中以上の成績をあげなければ進級せしめないことになつてゐるのだが君は跳込法考査でいつも問題になつたが他の方の出来ばへで補足されたものだ。一體跳込法は思ひ切りが肝心で平素練習を怠らなければ誰れでも苦にならないものだが君は生來嫌と見へ練習を敢行されなかつたから大なる悩となつた。だが上級に進むにつれ是非體驗して置かなくては後進指導に支障を來たすことを自覺され段々と試みるやふになつて後年水上競技聯盟跳込委員の一人として採點席につかれたこともあつたが、さぞ跳込選手の爲めに同情の目を以て採點されたことと思ふ、泳ぎの方は全く好きで、跳込の苦手があつてさへ毎年缺かさずに水泳部に來て修行された後年専門の仕事で多忙の身を以ても水泳の普及發達に渾身の努力をはらわれ一方日本水上競技聯盟の役員としてあらゆる方面に時間を割いて活動され今日の盛況を導かれたのを見てもその心意氣はよく分る。君の御親父は工兵科出身の將軍で數理に明く陸軍次官當時にはその方での第一人者であられたと云ふことを聞いてゐるが君もその血をうけて理科方面に進出し特に地震學の方では我國の權威者となられた程で緻密の腦髓の持ち主であつた。泳ぎの方も學理と實際とに立脚して練磨された爲め進境も著しく桐陰會の水泳監督としてはその指導振の極めて懇篤で後進の敬慕の的となつたものだ。君と私とは師弟の間柄であるが、私が學理と實際とについて不審のあるときにはいつも學者としての君に教へを請ふたものだ。その場合君は含蓄を披瀝してその自信を述べられ私の爲めに大なる裨益を與へられ指導上にも安心して説くことが出來た。君は外遊して我國の水泳術が世界に卓絶してゐることを確信し古來より歴史を有する各流派を守り立て、その泳方の保存と發達とを目途に大同團結をすることが目下の急務であることを痛感され嘗て其所信を私に打ちあげられたことがあつたが私も同意見であつたので相談の上水上聯盟の方は君に游海聯盟の方は私からそれぞれ手分けして意

見を開陳し大方の賛成を得て遂に全國八流の家元を東都に招待して神宮プールで實演し一般都人士に公開することに運びをつけた。會後新に入流によつて游泳聯盟を組織するの議を上せ一同の賛同を得日本水上競技聯盟を組織する一團體とすることになして我國水泳界に一大光明を發揮せしむるに至らしめたその功績は實に君の熱意の迸しであつた。だが不幸我等の意志を解せざるものあつて幾何もなくして分離の止むなきに至つたのは實に遺憾千萬であるが兎も角も大所高所よりこの目途に邁進せられたその熱意は稱贊に値ひすべきものであつた。私の教へ子も數多くあるがその中でも先年物故された松村素夫君や杉村陽太郎君のやうな人格識見共に優れた水泳家を失つて頗る遺憾に思つてゐる矢先きに又々君のやうな水泳熱心で學徳共に高き人を失つたことは私個人としては勿論、日本水泳界の爲めに多大の損失であると云えざるを得ない、今更云つても返らぬことであるがこれ等の人々が元氣であつてくれたなら私が今日まで微力を盡して來た水泳普及事業もその志を繼いで一層擴大してくれることと信ずると同時に我國水泳界に更に更に大なる貢獻を爲されることであらうと思つて痛惜至極の次第である。

(二月二十八日稿)

## 石本さんの追憶

堀江耕造

時 二月の某日

所 濱松の某所

人 A、B、Cの三人

A さきには飯田さんを奪はれ、今また石本さんを失つた事は聯盟にとつては何とも表現し得ない程の打撃ですね。また水聯の誇とする理科方面の人材が一人宛滅つて行くのは如何にも寂しい事ですね。

B 石本さんといふ人は風貌の示す如く誠に圓滿な人格の持主である一方、専門の方面の實驗の仕方などにも面白い獨創的な所を多分に持つて居て理學者でありながら他面に於いて多くの融通性を持つて居たやうです。

C 趣味も多方面の様でしたが、大食を誇つて居た様です、それで石本さんがいはれるには、食物に對する味覺といふより咽喉を通過する時の感覺がとても嬉しいんだといつて居られました。

B 科學を他の部門に應用するといふ事は常に考へて居られましたね。たとへばオリンピックのための科學施設研究會などでも、オリンピックのための科學で満足せず、もう一步進んで科學のオリンピックで行かうといふ抱負を持つて居られました。

A 音響學の方の關係で先年、井伊谷村の龍潭寺へ學會の人達と一緒に來て鶯張の廊下を調査された事がありました。

B その途中高工のテレヴィジョンを見に寄られました。なほ日本樂器會社とも關係を持たれ、時々有益な指導を與へて居たやうです。

A 然し石本さんは音樂と音響とを嚴格に區別して居たさうですね。

B さうです。それが徹底して居て、音響學會に音樂の話を持ち出すのは不適當だといふ所まで行つて居ました。

A 話がまた趣味へ戻りますが、數ある石本さんの趣味の内で俳句も相當天狗だつたさうですね。

C さういへば私の所に短冊と色紙とがあります。今思ふと大變いゝ記念になつた譯です。

A どんなのがありますか。

C 「命あれば人にも負けず月見哉」

A 成程。食物が咽喉を通る時の快感を楽しむといふのと一味通ずる所がある様に思ひますね。それから。

C 「聖者絶えて秋寂莫の嘆き哉」これは或日の心境でせうか。それから「月影や書架三尺に學遠し」といふのがあります。「學長し」の方がよかつたと後では云つて居られました。

A ARS・LONGA・VITA・BREVIS をうたつたものでせうか。俳號は何といはれました。

C 「奇石」でした。

B かやうに多種多様に渡つた面を持たれる事があの洒脫な態度を生んだのですね。

A その結果がプール測定の嚴密な規則を實施する場合には案外圓滑に出来るやうにさせたり、水泳指導者の資格審査についてもなるべく繁文褥禮に陥らない様な工夫をされた事になつたのでせう。

B 何にしても第十二回オリンピックと關係の非常に深かつた石本さんが、其大會が開催さるべくして開催不可能に陥つた年に此世を去られたのも何かの因縁でせう。

A 今頃は何處かでクーベルタン男爵と其事で話

合つて居られるかもしれません。

## 石本已四雄氏の逝去を悼む

齋 藤 亨

石本君の突然の訃報に接して先づ茫然とし、それから惜しい事をしたと痛感したのは凡そ氏を識る人の等しく味はつた事であつたらうと思ふ。學界の損失は勿論であるが水泳界にとつては一大痛恨事である。氏の水泳界に残した偉大なる足跡は普ねく人の知る所であるが、その過去に於ける輝やかなしい功績よりも、これからの水泳界に是非なくてはならない存在であつたと思ふ。今NSRの上層機構を見ると、氏を失なつた後には補充する事の出来ない大きな欠落が残る。奥齒の一本抜けた形で、氏の圓滿なる人格は常に聯盟内部の仕事を圓滑ならしめる指導的存在であつた。また石本君の様な重厚な人格者の居ない聯盟が、對社會的に何となく軽くなつた様な氣がして淋しい。

聞く所によると、昨今厚生省ではスポーツ界の統制を企圖して居るさうである。その内容は知らないが、若し體協が不用意に官僚の不純な劃策に便乗し、眼前の小さな便利に眩惑されて仕事したら、結果は大變な事になると思ふ。由來各省には自分達の願使通り自由になる外廓團體或はそれに類似した營利會社等があつて、官僚はこれによつて仕事の上の便利を得、或は老朽若朽官僚の捨場にもなつて居るが、厚生省は未だ新店でそんな出店を持つて居ない。何とかしてこれを獲得しやうとあせつて居る。他のやり方を見て居ると少なくともそう見える。體協が此の犠牲になつたら一大事である。この統制の結果は體協の構成分子は恐らく體力局邊りでお好きな府縣單位になり、今迄の體協の構成スポーツ團體は去勢されて主權は府縣體育主事邊りに移動するだらうと思ふ。此の場合NSRも御多分にもれず豪華な水泳日本も昔日の白夢と化するであらう。日本の水泳の過去の輝やかなしい發達に對し大きな役割を賦課されて居た地方加盟團體も有名無實な存在となる。此のお役人の統率指導下に、水泳が果して現在迄の様に普及發達の道を旗鼓堂々前進し得るかどうか思ひ半に過ぎるものがある。吾々は體協の動きを斷乎たる信念を以て看視する必要がある。

此のスポーツ界の非常時に際して水泳界に於ける

石本君は掛け換へのない必要な人物だつた。また技術的方面から言つても、日本の水泳が他の凡ゆる競技に比較して一步前進して居るのは、石本君等の科學的研究に負ふ所が多いのだが、未だ將來澤山の研究す可き事項を残して前には飯田光太郎君を失ない今また石本君と相次いで技術的方面から二大柱石を失なつた事は水泳界にとつて大きな損失である。氏の急逝は返す返すも遺憾な事であつた。

## 石本さんを憶ふ

松澤一鶴

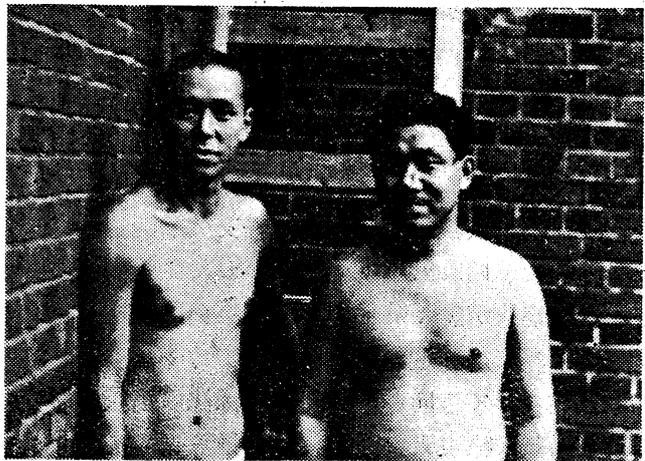
曩に飯田さんを失ひ、今年亦茲に石本さんを喪つた。水上聯盟としては餘りにも大きな痛手が續くのでたゞ茫然自失するばかりである。殊に筆者自身としては自分の水泳生活に對する初期の大きな指導を與へて下さつた先輩だけに親の死に對する如く心からたゞ悲しい。謹で哀悼の意を表すべく思ひ出話に過ぎないけれども石本さんに就て記す事にしやう。

僕が始めて石本さんにお會ひしたのは大正六年の秋、その夏に竣工された東京神田のYMCAの室内水泳プールに於てであつたから、石本さんとの水の縁は始めから、深いものであつたと思はざるを得ない。石本さんは丁度理科大学を卒業されて工學部の造船實驗室で末廣恭二博士の下で勉強されて居つた頃で、その頃はまだガリガリに瘦せて居られた方の大將で、同じYプールに熱心に通つて居つた飯田光太郎氏の肥つた身體と好一對をなして、我々中學生グループの漫評の對照となつて居つた。その瘦せた石本さんが大正十三年に佛國留學から歸朝された時には驚いた。「佛蘭西の葡萄酒はうまいんだよ、君」と云つて話す聲には變りが無かつたが、見違へるばかりの肥り方で餘程佛蘭西葡萄酒が卓効があつたらしい。

その頃のYMCAプールの思ひ出程楽しいものはない。まだ誰もクロールなど泳いで居る者は無かつた。僕や和久山修二君、又これも近頃亡くなつた昔の早稻田の鬪將小高賀茂君あたりが一高水泳部の澤田津田の諸君からクロールバタ足の初歩指導を受けると云つた様な時代、それも「なにそんな風でいゝんだよ」などと云ふ今から考へれば頼りないコーチではあつたらしいが、初めて教はるものの嬉しさは總ての不備をも打ち消してひたむきに泳ぎに泳いだも

のであつたが、その頃に一番よく直して下さつたのが石本さんだつた。此等先輩の口の悪いのは通り相場であつたから、大概辛辣な批評には誰も驚きはしなかつたが、梅澤・飯田の諸氏となると大局論で見て貰つても何だか頼りが無かつたが、石本さんはずつと具體的に手はどう足がどうと云つてくれるので嬉しかつた。しかし僕は何年手が搔けぬと云はれ續けたらう。遂に高等學校の二年の頃だつたか、漸く少しは手を搔く事が出来て自分でも眼が覺めた様に氣がついた時に「どうだい」と云つて共に喜んで下さつたあの石本さんをしみじみと思ひ出す。Yプール時代の石本さんは洋行前であつたから、クロールにした所で又他の競泳の法にした所で知らない事は他の人と同様であつたらうが、一高水泳部時代に於ける日本泳法の解析的研究が如何なる泳法に對してもはつきりした一家言を述べ得る境地にまで到達して居られたものと思ふ。

その頃のもう一つの深い印象は別項津田さんの追悼文中にある「水泳體型と水の抵抗に關する研究」のある寫眞を見せられ説明された時の事である。泳ぎのスピードが増すに従つてクロールでは體を弓の様に反らせて置くのは誰だと飛行機の翼を引合ひに出されて説明された時のあの熱の籠つた眼差しを今でもはつきり思ひ浮べられる。場所は震災前のYMCAの特別會員のロッカー・ルームであつたと記憶する。又この研究からスピードが遅い時にはこの體型が得なのだ云つて水府流平伸の型に獨得の工夫を凝らしそれをプールで泳いで見せても下さつた。そして石本さんの平伸は實にうまいものだつた。此等の事は僕の心を非常に打つた。泳もこゝまで行き得るものかとたゞ感激で嬉しかつた。



帝大タンクにて左(松澤一鶴氏) 帝大生と石本氏大正十四年七月上旬

YMCAの頃に就てもう一つ語らねばならぬ事は此處のこの新しい氣持で起りかけて來た水上競技に對する運動に關してである。もとより石本さんは競技に就いて深い關心を持つて居られた。高等學校時代もさる事乍ら、特に大學の頃からこの方面に關係して居つて、大正六年の五月芝浦に開催された第三回極東選手權大會の時にはストップ・ウォッチを握つて水泳計時員として堀割のプールで内田・齋藤さては白山源三郎の諸氏が競技するのを計時して居られたさうだから大分に古いものである。因に記すが此の大會の折には飯田さんが陸上競技で計時員をして居つたのださうであるから益々面白い。この様な關係で競技の事に熱心で、YMCAで屢々催した室内競技會にはいつも梅澤、飯田さんと共に役員であつたし、特に大正十年に第一回の全國學生聯盟の競技會が始まる頃からはこのYMCAが萬事相談の中心であつて、この年に石本さんが巴里に留學するまで常にかうした會に梅澤、飯田氏と共に石本さんは無くてはならぬ人であつたのだ。

この様な關係にあつただけに大正十三年に歸朝されるとすぐに結婚生活に入られて一身上には忙しい折であつたにも拘らず、この年の十一月舉行された第一回明治神宮大會には計時主任として水上競技の爲に活躍して居る。爾後YMCAの因縁でこの第一回明治神宮大會を期として生れ出た若い大日本水上競技聯盟の有力な推進勢力の一つとなつた譯だ。同時に學界に於ては大正十四年から地震研究所が開設され、この方面にも快速調で活躍が始まつたのであつた。

多難であつた創生記時代に於ける水上聯盟スタッフとしての石本さんの事柄は當時まだ泳いで居つた僕には思ひ出す事が少い。寧ろ田畑君あたりに書いて貰はねばならぬ所だ。僕が思ひ出す最初は昭和三年の秋に舉行された朝日新聞主催の國際大會の後で明治神宮水泳場建設を熱心に主張する一人であつた事だ。又それと相前後して、明治神宮體育會に再加盟の交渉に水聯代表として立派な外交的手腕を振つて成功された。昭和五年に至つてかねて主張の明治神宮水泳場建設が愈々着手されて、第九回極東大會を新設プールに於て迎へ得る目算がつくや否や石本さんは猛然として方向を轉じて日本泳法の正統の研究に乗り出し、極東大會を機に演武種目として八つの古流の實演を各々その家元及び直系の人々に依つて

實演し得たと云ふ事は、古今未曾有の盛觀であつたと云つてよいであらう。この時は小堀流の小堀平七翁も能島流の多田一郎翁も泳がれたが、今日もう故人となられた。將來の日本水泳史から云ふならば當日の極東大會の成績よりも、その時のエキジビションであつたこの演技の方が餘程大きな事件となるに違ひない。そして石本さんはこれを機會にこの八流を基礎とした一つの聯盟を組織し、日本泳法の正流を保存すべく努力され、遂に舊日本游泳聯盟もその熱心により解體合流し、水上聯盟に加盟し協力邁進しやうとして居つたのであつたが、最後に至つて游泳聯盟理事者の誤つた考から遂に加盟の實現を見ずに終つて、その爲かこの方面には石本さんの期待された何らの成果を見ずに今日に及んで居る。此の點は水泳に關して故人の最も不本意なるものの一つであつたらう。しかし石本さんは苦心された新聯盟と別れてからは一つもその事で愚痴を云はれた事が無かつた。そして新しく所信に向つて邁進遂に昭和八年以來五年間の努力により水泳史研究會の輝かしい業績として飯田氏の協力を得て世界に誇る水泳史料集成の一冊を水泳界に贈つた。此の本に關しては今更喋々するを要しないだらう。物故されてから筆者は石本さんの年譜を作るべく故人の膨大な書冊を獵る内に故人は既にその第二冊目を集大成すべく着々用意して居られる様を見て、その熱意に對し心打たれ思はず眼頭を熱くした。

斯うした各流派の綜合研究中に石本さんはその正流を純粹に残すと同時に、その基礎泳法の精粹を整理純化してこれからの日本泳法を制定する事を主張された。昭和六年から始つて翌七年に至つてNSR標準泳法を發表するに至つた。この事業が如何に海軍方面に高く評價されて居るかは知る人ぞ知るであらう。又自ら人を掲げて小學校方面へ呼びかけ、先東京小學校水泳聯盟の結成をなし、自ら實行運動に乗り出して行つた。尤も標準泳法制定の實際的動機は昭和五年以來の水泳指導者講習會、六年以降の指導者資格檢定試験に一つの標準を得る事ではあつたが、その目的は廣く大きかつたのだ。これだけの道を開拓した指導普及委員長としての石本さんの功績はこれだけでも永く記憶さるべきであらう。

然るに石本さんにはまだ外に建設測定委員長としての實績を併せて記さなければならぬのだ。石本さんは前述した様に少くとも大正六年の芝浦極東大

會以來ストップウ・オッチを競技會毎に握つて居る。そして物理學者的の良心を以て水泳記録に對して居た。水泳記録の要素となるべき距離、時間の測定に對して非常に細心であつて、此等の事に就ては我々は幾度か議論した事であつた。平生温厚な石本さんがカンカンになつて怒つて終ひ、我々をして「弱つたなあ」の嘆聲を發せしめたのも主として此方面であつた。遂に昭和六年飯田さんと共に全國の既設標準プールを巡廻測定し歩いて、その結果はN.S.R競泳池公認規定となつた。世界に冠絶する此の種規定の唯一のものである。又ストップ・ウオッチの誤差修正に年中苦勞されて居つたし、此の頃では計時員の性能驗定まで天文臺の橋本教授と協力してやつて居られた。又昭和十年秋の神宮大會には自動判計時装置の研究までに發展して行つた。此の努力は更に進んで昭和十一年に第十二回オリンピックが東京開催と決定するや、オリンピック水泳スタジアムの爲に水泳科學施設委員會をマネージして活躍を始めた所が直にオリンピック組織委員會に買はれ、全種目を包含するオリンピック競技科學委員會に發展しその委員長として活潑な歩を續けた。丁度伊太利交換教授として外遊される事になつたので、昭和十三年の始以來は丹羽工學博士に委員長を譲られたが、同年東京大會返上と決つてこの委員會も遂に解散となつた。東京オリンピック組織委員會がその活動の實績として後世に残し得たものは戸田橋のपोर्टコースと、横濱のヨットハーバーと、後はこの委員會の研究の業績だけだとさへ云はれる。かゝる點にも石本さんの天才の偉大さをしみじみと思はせる。此の會に於ける水泳關係の事柄はプールの水の波動の研究から、波止め装置の考案などその最たるものであつた。

科學者物理學者としての石本さんは又大變なものであつて、日本の地震を世界の水準に引上げ、更に之を引離し伊太利にまで出張教授に及んで居る位だからとても詳しく記す譯にはゆかぬが、聞き及ぶ所を簡単に記すと、理科大學の實驗物理科を卒業後工科の造船實驗室に續いて三菱造船の研究所に勤めて船舶の振動實驗に數多くの業績がある。その方面の研究の爲に佛蘭西の巴里市工業物理學校のランジュマン教授の下に振動學並に音響學の實驗を學び、歸朝後に遂に振動の本家本元たる地震研究所入りをされてから學者として石本さんの眞面目を發揮し出

した譯である。先づ獨創的で熔融水晶製の鋭敏な傾斜計を發明し、土地の傾斜變化と地震の關係を研究して理學博士の學位を得、又帝國學士院賞を授與されたを振り出しに地震計を改良、又地震加速度計を案出し、此等の新銳武器を以て地震の發生機構原理の基礎的なものから、應用地震學とも云ふべき地下物理探査法に至るまで丁度水泳指導普及と同様な廣汎な研究で、論文の數は九十五篇にも上る。しかも近々十年間の仕事である。昭和七年地震研究所長代理となつてからの活躍は殊に目覺ましく、本邦の數ある學界でも特に活潑な研究を見せてその方面の視聽を集めたものであつた。その上に専門方面の必要から淺間火山觀測所を開設したり、基礎研究會を作つたりした。此等の關係から關門トンネル調査に盡力されたり、國策遂行に一役買つて滿洲北支の資源探査に偉功を立てたりした事はまだ我々の記憶に新しい。又趣味の方面をも含めて自分で日本音響學會を創立したり實に驚くべきエネルギーであつたと云はねばなるまい。科學に對する態度はその著書「科學への道」に依つて窺はれるが僕が尋ねた時には、「ナ＝水泳の御蔭だよ、水泳部である馬鹿になつて泳げた爲だよ」と答へられたのを又無性に嬉しく思つた事も忘れられない。

趣味と云へばこれにも亦石本さんは間口が廣い。水泳は本來から云へばその筆頭であるべきであらうが、これは専門として既に記述した事であるから之を措いて、他には先づ、文學、繪、西洋音樂、觀世流謡曲、仕舞、仕舞の方から來た事であらうが能面や世界各國の御面の蒐集、河童に關する蒐集、何れも相當以上のものである。佛蘭西留學中にも謡曲とは仕舞をやつて見せて外に非常な評判を起したと云ふ、聯盟の會などでも日米對抗に勝つた時と云ふ様な氣持の晴れやかな行事の後などでは酔ふ程に自ら扇をとつて舞もした。かと思ふと外遊先から手紙を寄せてベートーヴェンの第九交響樂に涙を流した報告をし「音樂は音ぢやない、壓力だ」と云ふ様な感覺をさへもらして居る。尤も石本さんはムソルグスキーやフォーレの様な作家が好きでベートーヴェンはあまり好まざる人であつて、大いに議論した事がある。それに対してこんな感激をしたと報告してくれたのだから嬉しかつたのである。

お面の話をし始めても切がない。巴里の古道具屋で能面の素晴らしいのを掘り出した自慢話が始まつ

て、電車に乗つて居て退屈の時は一人一人とこれはお面になる顔ならぬ顔などと眺めて考へてると面白いと云ふあたりになつて落になるまで話は實に面白かつた。學者らしい巧まざるユーモアは常に一層と朗かにした。確か學士院賞を貰はれた時か所長になられた時かの事だつたが、我々水聯の役員に御挨拶があつて然るべき旨申入れをした時、喜んで支那料理の珍味を御馳走して下さると云ふ約束になつたものだ。そして曰く「支那料理もねえ、君、熊の掌を喰べなくちや駄目だよ、それも右の掌でなくちやいけぬ。右の掌と左とでは第一に値段からして違ふんだからねえ。何故つて云へば右の掌はいつも熊が蟻を潰してその掌についた蜜を嘗めて居るんでそれで右の掌がうまくなつて居るんださうだよ」事支那料理となると此も趣味の内か、何でもこの調子でまくし立てられるのだから一同大いに感心して聞き惚れて居ると眞面目な顔をしたまゝで石本さん「熊はねえ、皆右利きと見えるねえ」

しかしとうとう熊の掌の御馳走に與る機会を見ずしてあまりにも急に他界せられて行つた。靈前に勳章が飾られて輝いて居るのを見てつくづく淋しくなつた。と云ふのは勳章の光でこれだけの學者は或は再び生れて來るであらうか、これ程水泳を熱愛し水泳の爲に天才を働かせて呉れる人は容易に現れまいと思つたからだ。たゞこれからは石本さんの一人分を皆で手を分けて遺志に添ふ様に各部門の水泳事業に働かねばならぬと思ふだけだ。

謹んで冥福を祈る。(一五・三・一七)

## 石本さんを偲ぶ

白山源三郎

石本さんを突如として失ふことは水上聯盟にとつて大きな打撃であることは云ふ迄もない、飯田さんと云ひ、石本さんと云ひ遠くは梅澤さんと云ひ、大切な人を然も之からと云ふ年齢で失ふと云ふことは何と云つても残念に堪えない。

石本さんが指導普及委員長として、小學校聯盟會長として、神宮體育會評議員として水上聯盟の爲に主として水泳の普及、研究の方面に盡された事は申す迄もない事であり、其専門的立場から計時について世界水泳界をして我邦の指導的地位を認めしめた素地を作られた功績は飯田さんと共に石本さんにつ

いて忘れられない點である。日本水泳史研究會を聯盟内に組織し正確なる日本水泳史の研究に發足したのは、石本さんの發意であり、其早くより熱心に行つて居られた水泳資料蒐集の産物である。氏の手元に神傳流宗家に所藏されるべき傳書が這入つた事に端を發する。そして氏と飯田さんの努力により後世に誇り得る水泳史資料集成が出来上つた。

小學校聯盟は現在では色々と有意義な仕事をする様になつたが、石本さんが其圓滿な人格で統率された結果であると云へる。石本さんの人格によつて統率されたものに帝大水泳部がある。帝大水泳部ではよく學生を世話され、學生も石本さんを慕つてよく其許に集つた様に聞いて居る。指導普及委員會の檢定試験に合格した人々を以て水泳指導者協會なるものが組織された。之が中心も亦石本さんであつた。今度の御病氣の發作が昨年の此指導者協會の總會の席上であつた事を思へば、石本さんの逝去が水泳に關連して居ると云へるのである。

最も苦心をされ最も苦しまれたのは、神宮大會に於ける、游泳聯盟との關係及び其後の同聯盟との折衝であつた今之を一々云ふことは出来ないが、水上聯盟關係では之が一番石本さんにとつて不愉快な事であつたに違ひない。最後にはアツサリ投げ出して一顧もされなくなつた。石本さんと雑談をして教へられた事が多い。博士になられた時と思ふが、皆がお芽出度ふと云ふと、「イヤ君等が水泳で一緒によく遊んで呉れたお蔭だよ」と云はれた事がある。水泳の仲間と聯盟の仕事をする事を楽しみとされたらしい、又よいリクリエーションとして居られた様である、その點お互であるが石本さんのよい所である。

筆者の學校の夏期寄宿舎が油壺の對岸にある爲帝大陸海實驗所の關係でお世話になつたし、水泳の關係を別としても色々と親しくして頂いた石本さんが逝去された事は一入淋しい思ひをするものである。

## 追 想

佐々木 救

石本さんの一高時代といふと今から三十年も前のことで、其頃の一高水泳部の思出はあれこれと個々の事柄に就ては印象深く頭に残つて居ることが多いが、正確に年代を覚えて居ないものが多い、石本さんの事に就ても同様である。

筆者は明治三十九年から大正六年まで毎夏房州北條八幡の一高水泳部で日を送つた。其頃の一高水泳部は神傳流と水府流太田流の泳ぎを教へ、指導の目標は「個々の泳ぎの目的に従つて正しく泳ぐこと」であつた。そして太田流は加福均三氏、神傳流は梅澤親光氏の研究が指導の中心力であり、競泳は水泳の一小部分として取扱はれ、明治三十九年から大正八年まで北條で行はれた關東聯合游泳大會でも、神傳流と太田派の泳ぎを主として行ひ競泳は御添へ物であつた。競泳を泳ぎの練習の邪魔物とまで考へられたこの時代に於て、梅澤氏は世界競泳界の状況を研究されて、競泳大會の競泳の成績講評の節そのレコードを世界レコードと比較されて「百ヤード一分八秒、世界の婦人レコード一分某秒に遠く及ばない」など云はれたものであるが、こんな貧弱の競泳のレコード時代に於て「日本人が近き將來オリンピック競技で覇を稱へ得るものは水泳である」との確信を述べられたのは末弘先生である。

石本さんは以上の様な水泳即ち流派の泳ぎの時代に高師附屬中學で本田先生の御指導で立派の腕になられ、一高水泳部に入られてからはその委員或は助手として活躍されたのである。石本さんの泳ぎは正しく眞面目に泳がるゝ有様が形の上に現れて居たことが強く眼に残つて居る。泳ぎに對する態度も極めて眞面目で、泳ぎの調子、手の掻方或は足の使方等でよく議論を闘はしたものだつた。

大正三年に競泳を主とする第一回全國水泳大會が開かれ、大正四年に上海の極東競技大會に始めて國際的競泳に乗出した頃から、水泳界の前途を洞察された石本さんは競泳の研究を始められ、それまで極めて粗雑であつた競泳の練習をあらためられて、競泳選手は本格的に競泳の練習をする様に精神的の改革を行はれ（一方選手の流派泳ぎ手としての精神をも忘れぬ周到の注意をして）その槍玉に上つたのが津田正夫君あたりで可成りぎゆうぎゆうやられた様である。一方水泳の物理的研究としては最初のものではないかと思はれる「體形と速さと水の抵抗に就て」の貴重な御研究があり（圖参照）大正六年に東京基督教青年會のプールが出来るに及んで益々競泳の研究に努力されたのである。

石本さんの人柄は皆さん御存じの通り眞面目で強い信念を持ち、然も圓満で趣味は廣く、深く學問に國際文化事業に又N、S、Rの事業に極めて大きな

足跡を残された。氏の圓満さは禪的修養（座禪などされたかどうかは知らぬ）による處が大ではないかと思ふ。

氏の大學生時代の頃であつたと覺えて居るが、或時水泳部の宿舎で大勢で勝手な熱の吹競べの節に、たまたま議論が政治のことに及んだ時、氏は極めて眞面目に「衆愚政治を排して有能人による寡頭政治を理想とする。貴族は優秀人の子孫である故遺傳學から見て概念的に貴ぶべきものであり優秀である」といふ意味のことを述べられた。其時の態度その時の眼ざしは誠に信念の人であり常日頃の柔和の人とは全く別人の感があつた、これが眞の石本さんであると思ふ。數年前から筆者は游泳聯盟との連絡に就て度々石本さんの御意見を伺つたがその間圓満の石本さんの心の中のするどさを見た様な氣がする。

石本さんがイタリアから歸朝の船中毎日御好のウオタークレスを澤山食べられて遂に横濱到着の二三日に品切となつた御話、あの「うまいですネー」の御言葉が耳に未だに残つて居る。茅ヶ崎の大川に生へて居るのを差上る御約束も筆者のすべらから遂に果さなかつたことが残念である。

## 石本已四雄氏の逝去を悼む

足立祐次

石本已四雄氏が急逝されたとの報せを受けて全く驚いた。あの堂々たる軀軀と旺盛なる氣力の持ち主がそんなにも早く逝かれるとは、遠く隔つて居る私には殊に少からず信じ難いものであつた。然し、現實は無情そのものである。名花俄に萎み美玉頓に碎けて今や温客遂に接するの機なし。嗚呼悲しい哉。

石本さんには随分以前から御懇意にして戴いた。Y・M・C・A時代の石本さんはどうも格別な印象が残つて居ないが、聯盟が創立されて規約の制定、組織の整備、水上競技の統轄に第一歩を踏み出して大正末年からは繼續的であつたが常に同好の泳ぎの道に於て一方ならぬ御厚誼に預つた次第で、殊に石本さんを近しく感じて文詢の度を増したのは昭和の始め頃大會が芝から玉川へ移つた時代だつたと記憶する。當時石本さんは矢張り飯田さんとタイアップして計時の方を主宰されて居つたので、（時計の規正も石本さんが帝大地震學教室でやつて居られた事を想起する）其の部下委員だつた私は自然色々と御

高話を承る機会も多く、また石本さんが以前三菱造船会社に居られた関係から同系会社の新末社員だった私には此の方面での話題も多く、事に當つて其の到着点を洞察して端的に終局を判断された石本さんの明晰なる理智、高邁なる識見によつて啓發される所極めて大なるものがあつた。今でも深く感謝して居る次第である。

石本さんが毎夕芝プールなどに出掛けられて、飯田さん、原さん、山崎辰雄さん、私、等と一緒になつて古流泳法で盛にO・B振りを發揮されて嬉しさうだつたのは其の頃の愉快だつた思ひ出である。その後大阪に轉任を命ぜられた私には、あの高潔なる人格、温雅なる風骨に接する機会も激減して大いに淋しさを託つたものだつたが、當時在阪の川口、高石、大谷、藤田諸兄と共に大阪體協の羈絆を脱して大阪水泳協會を設立するに至つた昭和十年頃からは再び石本さんの懐しい警咳に接する機会も多くなり、石本さんに會へると云ふ事が上京の一つの楽しみでもあつたのに。今やその人溘焉白玉樓中のものとなりて空し。悲しい哉。

石本さんに永い間色々御高誼、御指導を賜つた御高德は、評議員、指導普及並に建設測定委員長等聯盟の大黒柱として組織の確立、建設測定の權威化、水泳の指導普及、標準泳法の制定、科學施設の研究等々「水上日本」の躍進史と常に併行して我水泳界に貢獻された偉大なる御業績と共に私の終生忘れる事の出来ない所のものである。茲に有りし日の石本已四雄氏を追憶して、遙に御生前の御高恩を謝し御冥福を祈り奉る次第である。

一五、三、三 瀬戸内海直島三菱社宅にて

## 石本已四雄氏の逝去を悼む

安部輝太郎

石本さんの逝去、それは遠く離れた僕には實に意外な訃報であつた。先に飯田氏を失ひ、今又NSR隨一のサイエンティスト石本先生を失ふことは我が水泳界に堪え難い痛手である。先生の斯界に残された功績は今更僕等が述べ立てる迄もあるまい。

先生の業績が實に偉大であり、にも不拘最も地味であつたことは誰もが同感であらう。

科學者として一世に優れた地歩を占められ、水泳界に於ても斷然先輩であられた先生が、よく大競技

會の時等地味な計時の役目を一手に引受けられ、堂々若い者と進んで協力されて居つた姿は、老若一體渾然として共同の目的に邁進するNSRの氣風の象徴であるかの如く見る目にも麗しく暗黙の中に後進に範を垂れて居られたかの如く、我々は毎度頭の下る思ひで親しみ接して居つた次第である。



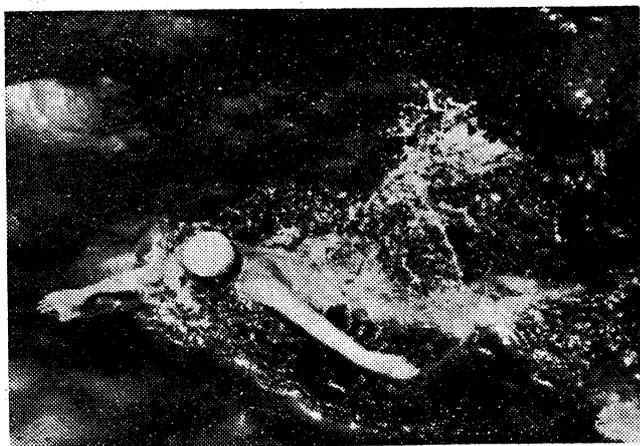
帝大タンクにて石本氏の水府流太田派「平伸シ」大正十四年六月下旬

斯る先生の熱心さ、地味さ、は勿論先生の人格の現れであつたには相違ないが其の根本は僕は先生が水泳を熱愛されるが故であると思ふ。然かも先生の水泳愛好は最も純粹な意味での愛好で、其處には一沫のケレンも何も無かつたことが彼の一寸類の無い言動となつて現れたのだと考へる。

故飯田氏と共にエレベーターに氣兼ねされる様な體格で元の帝大工科のタンクでよく泳がれ、鐵砲風呂の水を溢れさせては何彼とテレ隠しを應酬して居られた童顔も既に亡いと思ふと淋しい。

窮窟そうに上着のボタンを一つ掛けて、訥々と閉會式の挨拶を述べられた先生の姿も再び見られない。

幸にNSRには未だ未だ人材の熱心家も多いこと



石本氏の水府流太田派大抜手大正十四年六月（帝大タンクにて）

は心強い限りであるが、石本先生の様な純粹な熱愛家、永い間の先輩であり友であつた同人を失つた事は何と云つても斯界の爲みに惜み切れぬものがある。

遙に謹んで敬弔の意を表させて頂く次第である。

## 石本先生と飛込

原 秀 夫

石本先生は、我々飛込の連中にとつても忘れる事の出来ない大先輩の一人である。

従つて「先生と飛込」についても、色々と思ひ出がある、然し何と云つても、最も深く印象に残つてゐるのは、あの龜の子の様に首をちぢめて、左手で坊主頭を撫でながら、ニコニコと、笑つて居られた石本先生である。

玉川プール華かなりし頃の或る八月の午後當時の一流選手たる、水谷、山内、清水等の諸兄に混じつて、原西三、小生等の未だ飛込を始めたばかりの四五人が夢中になつて飛んで居た。

其處へ石本先生、何時もの如く、大きなお腹を重さうにゆすりながら、飛込臺の方へ歩いて來られた。御名前は前から伺つて居たし、飛込競技會の時には必ず、採點板のホイッスルを持つて居られたから、オーソリティーである事は小生も知つてゐた。

當時私は十米固定臺の前飛の猛練習をやつてゐた。ところが何度飛んでも放り出されて脚の裏側が眞赤になつてゐる。その内にどうしたはずみか、自分でも極めて氣持よく飛べて眞直にスポンと入水した。さんざん苦勞した揚句だからそれが假に「フロック」であつても、内心聊か得意で石本先生の處に行き、

「先生、今のは如何ですか」と訊いた。すると先生はニコニコ笑ひながら、例の如く首をちぢめて曰く、

「原君、今のは如何だと云ふけれど、君のやつてゐるのは、ありや——、飛込ぢやないよ。君あれは唯高い所から水に落ちてゐるだけだよ……君は芝居や何かで踊りを見た事があるだらう……勿論日本の踊りとは限らないけれども」

「え、勿論あります」と答へた小生少からず憤慨氣味、

「巧い踊りと下手な踊りとを見比べて何處が違ふと

思ふ？今度又機會があつたらよく注意して見給へ、キット得る處があるよ」

斯う云ひながら、先生は靜かに事務所の方に行つてしまつた。

勿論その時の小生には先生の云はれた事が何の事か分らなかつた。然し其後機會ある毎に、踊りやフィギュアスケート等も見だし、ライリーやスミス、シヨイカ等の米國の飛込選手が來た時など、殆んど毎日夢中になつて見た。その内に日本の飛込のレベルも次第に昇つて來た。そしてその後も、石本先生には神宮プール等で競技會のある度に、

「先生今日のは如何です。飛込になつて居ますか」「うん、飛込らしいものが大分殖えて來た。全種目が今日の最も好かつたものゝ様に飛べる様になれば段々本當の飛込になるだらう——」

そして又別の競技が終ると、

「先生今日のは如何ですか」「うん非常に良くなつて來た。今日飛んだ中で四等以下の選手が何人かゐるだらう——あの連中が今日の四等位のレベルに達すれば、本當に充實した飛込競技會になるだらうもう少しだね……」

此が私の飛込に關して先生から伺つた最後の御指導である。勿論最近の先生は直接飛込の選手連中には交渉がなかつたが、小生等にとつては最も良き指導者であつたし、日本の飛込が、美しい眞の飛込に一日も早く達する事を望んで居られたのである。だから我々が益々努力し幾多の飛込の名選手が輩出して、名實共に充實した飛込競技を實現することが、最も先生に喜んで戴ける事だと信じてゐる。

## 石本巳四雄氏の逝去を悼む

栢 原 政 勝

石本さんには昨年初夏水泳指導者協會總會の時、如水會館で發病せられお別れしたのが永久のお別にならうとは、其の後大變御快方だと聞いてゐたので御逝去の御通知に接した時はまさかと驚き意外に思つた。

石本さんの水泳界に残された業績の多大な事は勿論であるが、中にも日本在來の古流派の保存にお骨折り下さつた事は大變なものである。昭和五年第九回極東大會の時であつた。當時は古流派の連中と水上競技の方とは、あまり交渉が無かつたが、石本さ

んの私信としてか観海流本部（三重縣津市）へ第九回極東大會に模範游泳に出場方の御書面を戴いたのが、私の石本さんを存じ上げた最初であつた。其の時集まつた流派が、神傳流、水府流太田派、野島流、小堀流、向井流、岩倉流、山内流、観海流と地方に在る流・在系流派合せて以上八流が、石本さんの御盡力に依つて一堂に相會する事が出来たのは、水泳史上特筆すべき最初の出來事である。第一回の顔合せは九段の富士見軒で（昭和五年五月廿三日）各流家元並に幹部連中が集まつたので、この時石本さんの發言でこの八流が横の聯盟を組織しやうではないかと云ふ話が持上り名稱は便宜上從來通り日本游泳聯盟の名稱を使用して、内容は新しい八流聯盟を組織しやうと申合した事は今尙筆者の記憶に明かに残つてゐる。

斯くて第九回極東大會には我國の古い傳統を持つ水泳術を對外的な席上で公開し得たこと又此の八流聯盟組織の基礎を確立せられ、進歩する世の中からは益々置忘れられ勝な各流泳法を保存すべく盡力せられた事は、石本さんの偉大なる功績であり吾々流派の者は深甚なる敬意を表し且又心から厚く感謝せねばならないのである。然るに日本游泳聯盟組織成るや、第一回顔合せの時の申合せとは大變な相違で八流聯盟組織の議が持上つた當時の事情を知る者とするれば石本さんの折角の御努力に對して出来る事であるかどうか、實に御氣の毒な結果であつた事は誠に申譯けない次第である。處が尙其の後も水泳史並に各流泳法の研究にお力を盡され、各流史資料を實地見學の爲めに關西方面へ旅行のお供をした事があつた。元來石本さんは大變趣味の廣い方で昭和五年十一月明治神宮鎮座十週年記念武道大會の時も、吾々古流の者は大變御世話になり、我観海流の連中はお宅に二三日御厄介になつた。

その時は色々趣味の話が出て俳句、能樂、能面、小文書、節繪、等々、時の過ぎるのも忘れて話込んだのであつた。

芭蕉の句に千部よむ櫻の道や一身田と云ふのがある。關西旅行の途中その一身田に立寄り櫻の道を御案内した事もあつたが、それもこれも今は皆昔の思出話とはなつてしまつた。

石本さん、飯田さん兩重鎮の御他界は我水泳界の大損失は勿論であり、日本游泳の研究をする吾々には又指導者を無くした感ではあるが、今迄の御恩に

報ずる意氣で努力研究を續け水泳史の完成に古流泳法の正しい保存に、御遺業の一部でも御手傳する事が出来得れば尊靈を幾分でもお慰めするのではあるまいか。

「あゝ消えて仕舞とはさて梅の雪」

二月七日告別式に拜して 魚艸

## 石本さんを悼む

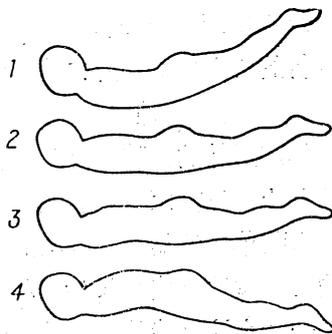
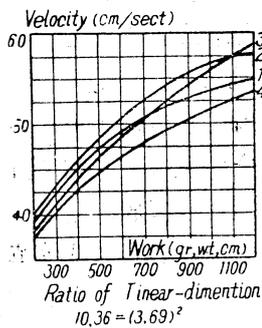
津田正夫

今度の石本さんの御不幸は、あれ程御厄介になつてゐ乍ら御無沙汰許りしてゐる筆者には何とも申譯なく思つてゐる。殊に昨年久し振りに故國に歸つてからは非常に多忙で、御病氣の御見舞も出來ずこんな事になつて了つたので、返へず返へすも不本意の至りだ。

筆者の思出から云ふと、石本さんと謂へば何うしても青寫眞の製圖みたいなものを思ひ出す。地震學の泰斗だから青寫眞も何も不思議もない事だが、實は其の寫眞は地震學に關係したものでなく、水泳に關するものなのであるから一寸説明の要がある。

大正六、七年頃だつたと思ふ。房州の一高水泳部で競泳と云ふ事がえらく問題になつた。事實問題としては其頃北條に關東水泳大會と云ふものがあり、一高水泳部から誰か出てはゐたし、僕の前にも今海軍にゐる畑オサカナ乃至は澤田の武チャンが活躍もしてゐたがまれに飽く迄個人がヴオランテアとして出場してゐたので、競泳を水泳部として認むるや否やと云ふ事は筆者の場合に始めて問題になつたのである。その時、斷然イカンと主張したのが石本さんだつたと思ふ。併しそれから種々議論も出た結果やるべしと云ふ事になつた時、石本さんは「やるなら本格的にやらねばならない。ウント科學的に」と云つて、當時水泳部にスポールディングの「競泳」だとか其他當時米國に留學中の末弘博士^{ガンチヤン}から送つて來られたカーナモクやノルマン・ロツス等の泳き振りの新聞切抜等の貧弱な資料しかなかつた爲、石本さんは大勉強の末本式に研究されて出たのが其の青寫眞であつたのである。筆者は一向、科學の事には不案内なので記憶も怪しいが、何も其の青寫眞と云ふのは、蠟人形を作つてそれを水をはつた硝子の箱に種々の角度で一定の速度で投げ込み、その個々の場合の水の摩擦の大小と其れに伴ふ速度等のものをカー

グに出して表はしたものださうで、「ウアー・ク・ダシ」  
とか「仕事量」とか云ふ言葉をお蔭で覚えた次第で  
ある。



筆者に關する限り、仕事量が何うであらうと問題  
でない。只石本さんの云ふ通りにYMCAのプール  
で或一定の角度でスタートしたりなんかすればよい  
ので、其の意味で筆者等、石本さんの研究の土臺と  
なつた譯である。其の間梅澤、飯田と云つたウルサ  
型の先輩の忠告助言もあつて、曲りなりにも之れが  
クロールとか云ふものに出来上りかゝつた譯だ。

(その後で松澤君が完成したものと思ふ)今から考  
へれば毎日冬の寒い夕方よくも一高の寮から神田迄  
歩いたもんだと思ふ。歸りには腹はへつたし寮の飯  
には間に合はず、持つてる金はなし、神田のパウリ  
スタの五錢のコーヒーで空腹を凌いだといふ珍話も  
ある。

兎に角あれ程迄に反對された石本さんが、やると  
なつたら今迄の行懸りを一切棄て、一生懸命に努  
力された事は、當時自分が一高の水泳部の委員をし  
てゐた關係からも亦自分が競泳に精進してゐた關係  
からも、感謝に耐えなかつた次第である。今にして  
想へば、こんな石本さんの地下運動が今日の日本の  
水泳を世界に君臨せしめたとも謂へる。

房州で、競泳の練習でヘトヘトになつて濱に上つ  
て來ると「型」が崩れたらうと云つて直ぐ脚立の方  
に呼び出され、脚立の上の石本さんに改めて一重伸  
をみて貰つた事を思ひ出す。自分としては競泳をや  
つてゐるが爲に型が崩れたと云つては活券にかゝは  
ると云ふ意地もあつた、石本さんとしては日本の水  
泳術と云ふものに對する愛着と關心があつての事だ  
らう。其の場合の脚立の上の石本さんと、水の中の  
筆者の氣持は、何うにかしてゐる一重伸をやりたい  
と云ふ點では一致してゐたし、その石本さんの心中  
も自分は充分汲みたい氣持があつた。だから「その

邊でいゝだらう」と謂はれてヒヨロヒヨロになつて  
濱へ上つた時の氣持は矢張り一高生が先輩に對する  
尊敬の念で一杯であつた事は今だに忘れ難い。

學校を出てからは外國生活を時々する様になつた  
筆者は中々お目にかゝる機会がなかつた。嘗て石本  
さんが巴里に居られる頃はドイツにゐたし最近石本  
さんが伊太利に來られた時はジュネーヴにゐたので  
再三お目にかゝつて昔話をしたいと願つたが旨く連  
絡がつかず結局こんな事になつて了つた。

## 石本先生の御逝去を悼む

辻 淳

石本先生は世間周知の如く御本務の方は元より、  
極めて多方面に渡り全く常人離れのした御識見御技  
量の持主であられ、今やその全活動期にあられたの  
に遽に御逝去遊ばされた事は國家社會の上からも誠  
に大きい損失であり大なる不幸と云はなければなら  
ない。ことに先生半生の御力を注がれた水泳界には  
一大痛恨事であり、就中先生を會長に載く小學校聯  
盟に取つては、全く親を失ふにも等しく只忙然爲す  
所を知らぬ有様である。又御残りになつた御家族様  
方の事を考へると、何御不自由なき御身の上とは申  
せ御心中拜察するだに胸打たるゝ思ひである。是處  
に筆拙くして到底爲し得ずと信じつゝも、生前先生  
が小學校聯盟を通じて、常常に御力を注いでおいで  
になつた事或は將來の希望として御漏らしになつた  
事などを述べには廣く世間の同志の方々にも御傳  
へし、又一つには初めより此の會にあつて、ひたす  
ら先生の御恩儀に感激し身の貧弱も打ち忘れ、只粉  
骨碎心一生を捧げても尙足らずとする多數の同志  
が、更らに此の折に心を新にし以て御心の萬分の一  
でも實現し參らせんとする覺悟を改めて、先生の御  
靈を御慰めする一助ともなれかしと念ずる次第であ  
る。

先生は今日ある日本水泳の育ての親の御一人であ  
られるは勿論であるが、とりわけ水の愛着者であつ  
たと申し上げ度い。そして其事は昭和七年來の小學  
校聯盟の會長さんとしての御態度なり御氣持の上に  
一層よく拜察出来ると思ふ。即ち水上聯盟が早くよ  
り實施の指導者養成講習、標準泳法の制定、指導普  
及部の設置等の氣運は必然的に日本青少年達に對  
する水泳普及、正しい指導が問題になり具體化した

のが小學校聯盟であるが之に就き先生は重要な産婆役を爲され、又會長さんとして何くれと御指導なさつたが、先生は此の會をまるで自分の子供を育てる様な御態度であつた。間もなく此の會は横濱水協内にも弟分が生れたが、これにも御心盡しの多かつた事は當局者が感激してゐた。先生は早く全國にかゝる催しが出来て互に連絡を取り合ふ事が大きい御望みであられた。同會では行事の一として子供達の競技會を行ふが、先生はこれに就ては、競技はむしろ手段的のもので子供達の泳ぎは之を趣味に迄導き度いと云ふのが第一念頭であられた。そして將來は益々マスゲーム式な水中遊技等を盛にすべきだとの御意見であつた。先生が都市兒童の健康に對する御考へは特に深かつたプール増設の事、郊外海岸等での遠泳の計畫そして自然の中に空氣浴日光浴を行ひ度いこと、又反面田舎の子供についても河川海湖の利用法の研究、泳法救助法の普及指導等トテモちつとしておられないかに見受けた。一般には更に指導者の養成、就中男女師範に水泳を課すること、現職教員への講習或は兒童に國民水泳章及救助章を與へる制度の研究、等其業績として残す所も多く、然るに此先生が御なくなりになつた事は獨り此の會のみならず、天下幾百萬學徒達の上にも何たる不幸であらうか。先生の御考へへの一端を申し述べるに當り只通りなからんことを恐る恐る申し上げたが、幸に此の世界にあつて一度先生の御人格に觸るれば、一生を通じて此の道に捧げんと感激した同志の數は夥い。そして何處何如なる立場からも、我等以上の御心、御力を以て進まれることを深く信ずると共に先生の御靈も亦之を受けて下さるものと信ずる次第である。

## 石本巳四雄君

齋藤武五郎

石本君がもう居ない。昨日迄本當に腹を打ちあけてあけすけに話の出来る友達が突然幽明境を異にしてしまつた寂しさは人間と云ふものが大きな宇宙から見れば馬鹿々々しい存在だと實にあぢけない気がする。然し學問的に人文の上に殘した石本君の足跡だけは永い生命を持つて居る……。

僕が石本君と始めて會つたのは建長寺の僧堂であつたけれども本當に親しく話し合ふ様になつたのは大正六年に一高水泳部と一緒に副師範をやつた時か

らで、いつとはなしに肝膽相照す様になつた。石本君の物の考方が一方西洋の學問をしたに不拘東洋的であつたからでもあらうと思ふ。その前から能や仕舞が得意で水泳部の會があれば大概聞かされ見せられたものだ。その影響と云ふか感化と云ふか考方が分析的でもあつた外に尙全體論的であつた。

性格は極めて圓滿の方で人と餘り争つた事もないし僕が對外的に喧嘩をしに行くとか或は破壊的に行くのと止める方だつた。例へば當時行つて居た關東大會も改革する爲めに破壊的に出た時に石本君は改革論で破壊は賛成しなかつた。

一高水泳部時代から外國へ行く迄は腦溢血で仆れる様なことを想像出来ない程瘦せて居て寧ろ當時は胸の病等でも心配しなければならない様な極めて華奢な體格だつた。當時の寫眞を御目にかける。

①

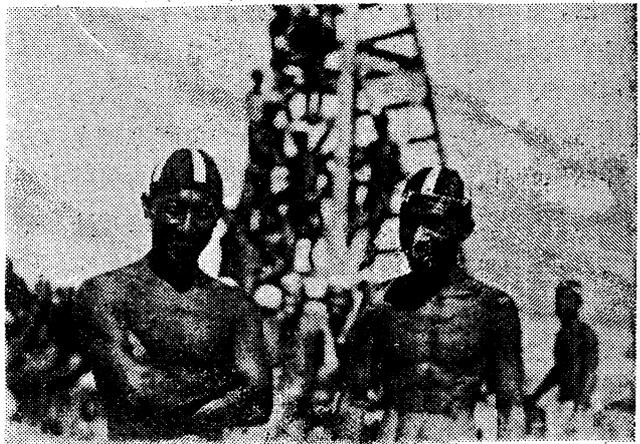
①は大學を卒業した年の暮に大學の御殿の池のほとりで寫した寫眞で晩年との差には愕されることと思ふ。

②は其の夏一高の水泳部の副師範をやつて居た時の寫眞

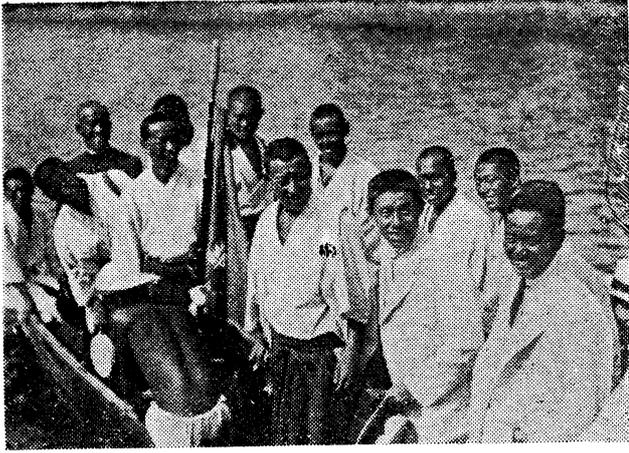
③は其の翌年初めて戸田の帝大水泳部で第一回競泳大會に遠征して優勝旗を得た時



②



で身體には随分注意をして居た様だ。當時我々は暴食をして居たけれども性格的にもそんなこともし



③

なかつたし又身體も注意して居たからと思ふ。

水泳の方は附屬中學で本田さんに教はつたが本當に修業したのは一高水泳部へ來てからで、由來一高水泳部では己の傳流を繼承する人間を見付けると之れを教へ込み鍛へ上げて之れを先づ委員に擧げ、更に其の後は助手として之の傳統を傳へる責務と更に研究する任務を負はすのである。石本君も相當鍛はれた方だつたと信ずる。石本君の前年の委員は佐々木救氏と越智主一郎氏等相當泳ぎにはうるさい方だつたので、此の兩君が直接鍛へ役を承つて居た方だか風にも堪へない様な貴公子然たる石本君は餘り水の中へ放り込まなかつたらしい。已に中學時代に形が出来て居たことも原因だつたかも知れないが又仲々理窟を云ふので議論も相當したらしい。越智さんの話である。當時一高水泳部では何と云つても水府流には加福均三氏を始め末弘嚴太郎氏、又神傳流では口の悪い點では天下一品の梅澤親光氏等が居て泳がないと泳がされるし、泳げば骨をさす様な悪口を飛されるし實によく今から考へると鍛へられたものだし、且又實によく研究されたものだ。一投手一舉手と雖もをろそかには動かさない。實に一高水泳部が日本の從來の泳ぎ特に水府流と神傳流については全く正に絶へんとした精神と其の形とを、完全に再生させたばかりでなく、更にその研究が其の後に入つて來た外國の競泳法を全く消化して日本の泳ぎにしてしまつたことは、泳ぎの本質を極め且把握した賜と云ふ可きであると思ふ。只單にスポーツとしてではなく武道としての、泳藝術としての泳にまで入つて居た爲めであると思ふ。それは精神と技術と一方に偏せず研究した結果と思ふ。其の傳統の中にあつて石本君も其の一人であつて、只課せられた

問題が日本の水泳の研究から競泳に轉回する時代に居たために先輩の研究と自分達の研究とに依つて新に、競泳法を開拓して行く使命を課せられたのである。その課題を使命を石本君は相當忠實に研究して居た。例へば競泳の體形は如何にしたら一番抵抗の少い速い體驗をいろいろの體型の蠟人形を作つて造船研究等の船型試験等のプールでいろいろの研究をしたもので、其結果の報告書は探したが見當らないので残念だが、其れによつて得た結果はやはり豫想を裏切らなかつた喜びを記憶して居る。小拔手の場合に手を眞直に伸して前に入れると共に直ちに搔くと共に之れに乗つて幾分胸が猫背をした時の様な形になるが腰は浮いて居ない。何しろ米國人の泳ぎがすつかり日本の泳ぎになつてしまつたのを實に愉快な思ひ出話にしたものだ。當時大正六、七年頃川口義久氏が米國から歸られてから、直ちに房州へ來て米國の大學の泳ぎを見せてくれた時米國の泳ぎ恐るるに足らずと、石本君と話したものだ。

當時石本君と副師範をやつて居た時の泳ぎの指導をして居た時の方針は、丁度その時が競泳への轉回を表徴するものとして石本君の考方の表象（之れは又東洋的な考方とも思ふ）として述べて見たい。即ち泳ぎの形よりも精神に重きををいて一つの泳ぎが出来れば泳の精神を擱んで居ることが分る。他の泳ぎが上手であらふが下手であらうが問はない。精神をつかんだ證據があればそれで充分である。他の泳ぎは時間の問題であるとして、その一つの泳だけでいくらかでも進級させたもので、又實際他の泳ぎは上達したものだ。又力の入らない形だけが出来たのでは決して上げなかつた。必ず力と精神を見たものである。劍道の師範の様でもあり、藝術批評家でなければならなかつた。其の點は眼光紙背に徹して居たと云つてもいい。又競泳も一つの泳ぎとして之を見た教へるにしても基本體形、之れは入り易く達し難い泳ぎであるが之れを主にしたもので餘力を競泳に向けた爲め幾分競泳偏重に傾いたが、丁度日本泳方から競泳に轉回した過渡期として今から顧みればそれでよかつたと思ふ。この點で石本君も日本の水泳史に生きて居る人と思ふ。

石本君も僕も勤める身となつても房州を忘れることが出来ず又、石本君は若い學生と一緒に居ることがすきで、土曜に出かけて日曜を完全に水泳部で暮し日曜早く（汽車が船形迄初めてついたので）歸つ

て来ることを例とした。石本君と一緒に話しをして居るのは僕も楽しみの一つで、僕が出かけるか又は石本君が来てくれるかして夜遅くまで話し、終電車でよく歸つたもので、或る時は僕が解析と微積分を教はりに行き、次の週は僕の處で獨逸語を教はると云つた調子で交換教授をやりながら、泳ぎの話や人生觀で駄辯つたものである。その中に外國へ行かうと約束して居たら偶然同時に外國へ行くことになり

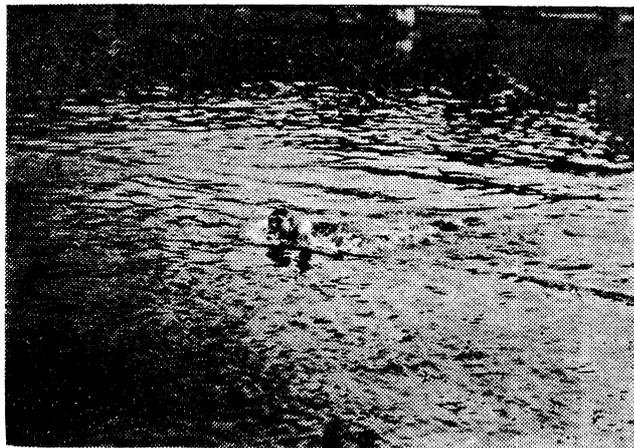
大正十年三月一緒に船がとれないで一週間違ひで出帆し、僕の船は獨逸の分捕船だつたので後から出て先に到着、石本君は佛蘭西へ僕は獨逸へ行つて居た。大正十一年と十二年とに獨逸へ遊びに来たので一日ドレスデンにオペラを聞きに出かけ、丁度夏(と云つても北緯五十何度だから日本の五月位)だつたのでエルベ河に行つて石本君は元氣よく泳いだその当時の寫眞が④



ドレスデン宮殿のバルコニーにて

⑤で片拔手重伸をやつて川を横斷しかけたものだ。その時には已に寫眞の様に肥へて居て僕は未だ瘦せて居たので泳がなかつた。石本君は嬉しそうに入つて少しも寒さうな形はしなかつた。

その旅行から歸る時獨逸のビールに分れるのがつらくて、汽車が出るのにも



④↑

⑤↓



う一杯頼むと云ふわけで大急でビールを持つて行つたら、本當にうまそうに飲んだ有様が今でも思ひ出される。然し、あゝもう居ないのだ。

## 石本已四雄氏の逝去を悼む

上野 徳 太 郎

先に、飯田光太郎さんが亡くなられ、いままた、石本已四雄さんが逝かれたことは、何としても、日本水上競技界の大きな損失である。水上日本建設の初めから、色々と御世話をして下さつた石本さんのこととて、全く残念なことである。

ずつと以前からお知り願つてゐる御年配の方を失ふといふことは、自分にとっては、この上もない寂しさを覚える。石本さんとは標準泳法の制定の協議會で、幾度か丸ビルの事務所で會合したが、石本さんは、何かと、おだやかな説を吐かれるとともに、自分の信じることには、つねに立派な意見を述べられてゐた。また石本さんの圓滿なる人格は、指導者檢定試験規定の細目を定める時にも、最も常識的な



巴里にて仕舞(花籠)を演ず

方法、課題の説となつて現れてゐた。

水を好む自分は、季節となれば、いつも裸を用意して、水に入る機会を逃さないものであるが、嘗つて豊島園プールの中水から、顔を出して陸をみた途端、そこに圓滿そのもののやうな顔つきをしてこつちを視て居た石本さんの和服姿を見出したのである。あれから、もう何年になるかしら——。その時石本さんは、子供さん方を連れて、矢張り泳ぎに來られたのだと言つてゐたが、世界的學者をプールの中から一段と尊敬して仰いだことであつた。

玉川プールでの競技會の後、玉川電車の中で、自分が中學生時代から地震に就ての事が好きだと言つて問ふまゝに、興味ある話をして呉れたこと、最後に、石本さんは「地震で家屋が潰れて死ぬことは、運が悪いのだ」と言つて地震に對する安心立命の境地を與へて呉れたこと等色々と思ひ出されてならない。

關東大震災前、神田のYMCAプールに於ける水泳競技の世話人は、石本さんの逝去によつて、殆んど居なくなつた譯である。今よりも狭かつたYMの見物席から、長さ二十ヤードのプールでの競技や練習を觀てゐたのは、ほんの昨日、今日のやうな氣がするが、石本さんが、學界その他に活躍の余地を遺して、世を去られたうちに、水上日本の今日の榮へをみられて逝つたことは、せめても満足に思はれてゐたことであらう。

日支事變以來、祖國日本古有の事物に對する憧憬に似た熱意が、各方面に、はつきりとうかゞはれる現在、日本古流泳法の鍊達者であり、しかも深い理解を持つてゐた石本さんを圍んで、日本泳法などに就て、浮世離れた話を聴くことも出来なくなつたのは、全くもつて口惜しい限りと言はなければならぬ。石本さんは、我々にとつては、石本博士といふ人ではなく、どこまでも、石本さんと呼ばして貰ふ人であつた。だから、私も、失禮ながらこの紙上でも石本さんと言はして頂いた。

## 石本會長の御長逝を悼む

内 藤 徹

石本先生は東京小學校水泳聯盟の會長として、建設以來八ヶ年に及ぶ今日まで終始一貫よくその重責を完ふせられ、聯盟の基礎を盤石の上に固められる

と共に、更にこれが發展に獻身的努力を續けて來られたのであつた。

我が小學校聯盟が一度も受難の憂目に遭遇せず、坦々たる道を歩くが如く極めて順調なる發展を遂げて今日あるを得たるは、全く會長石本先生の高邁なる御人格と卓絶せる識見御手腕に依るものであつて、此の偉大なる御功績に對しては聯盟に關係する者の等しく感謝感激措かざるところである。

聯盟は今やその柱石と頼んだ會長を失ひ、永別の悲しきに遭ふ。我等は茫然なす所を知らず、只愛慕の情堪へ難きを覺ゆるのみ。

眞に先生の御急逝は、夙に先生の學徳を敬慕する者達の等しく痛惜するところであるが、我々にとつては實に慈父を失つたも同然で、悲しみも一入であり、孤獨寂寥の感なきを得ないのである。

在りし日の先生を偲べば溫容眼前にありて、想出も深く渾々として盡きない。

元來我が小學校聯盟は日本水上聯盟の大方針によつて生れたものである。昭和七年の秋であつた。一時恰も我が水上軍は第十回オリンピックに於て待望の覇業を成就し、正に水上日本の眞價を發揮して世界にその意氣を宣揚された直後の事である。YMCAの一室に末弘先生を初め石本先生飯田さん其他聯盟の幹部の方々の會合があり、その懇談會の席上へ小學校側から辻・分林兩君と私の三人が呼ばれて列したのであつた。話題は勿論水泳の普及促進に關する問題が中心をなしたのである。「普及の第一歩としてよき指導者を得なければならぬ。指導者養成が先決問題である。」が、この方へは水上聯盟として既に數年前から着手されて居たので話は専ら第二次の量的獲得の方へ進んで行つた。

そして「普及の萬全を期するには先づ小學校の兒童から始めること、而もこれが指導陣の完璧を計ることが焦眉の急である。」と云ふこと等が強調されたものである。こゝに愈々國民皆泳の大理想實現への邁進が高く大きく標榜されることになつた。そして初めて學童水泳の普及發達を目指しての研究機關が設けられ、それが間もなく小學校水泳聯盟の結成と云ふことにまでなつたのである。

東京小學校水泳聯盟の誕生！ 石本先生はこの時既に指導普及委員長として普及部の總帥たり。御多忙の身でありながら會長の推戴を直ちに快諾されたのであつた。併しこの御快諾を不思議がることはな

い。先生にして見れば寧ろ御満足だつたとも言へるのである。豫々學童の水泳に對しては特別興味を有つて居られ、これの普及進歩を常に希望されてゐたことから推しても先生が快く承諾されたと言ふことがよく頷けるのである。

爾來先生は聯盟の生みの親として又育ての親として身を以て我々を率ゐられたのである。殊に草創の際の如きは關係各方面の援助を得る爲め藤森主事を帶同して東奔西走、全く寢食を忘れての活動を續けられたのであつたがこれも今は寂しい想出となつた。

先生は玲瓏玉の如き圓滿な御性格で而も包容力と決斷力に富んで居られた。我々の意見は快く聽いて下されたし、獻策を即座に容れて下された事も幾度かあつた。そして屹度「やりませう」「やらうぢやないか」と鞭撻し指導されたものである。又兒童水泳大會には萬障を排して出席され、開閉會式に於ては必ず一場の訓示を述べられることになつてゐたが、その際の先生の親しみ深く臨まれる様は正に愛兒に對する慈父の觀があつた。愈々競技が開始され、小河童連が飛沫をあげて飛込む姿や體は小さくとも大選手にも劣らぬ力泳振りが見られるやうになると拍手しながら無性に喜ばれたものである。その時の満足さうな顔が今も尙眼前に浮んで來るのである。かくして先生は大會の成績を通して水泳一般の進度を知らんとされたのであるが、大會毎に参加者を増しその質に於ても技量の進歩向上の跡が現實に見られたのであるから如何に喜ばれたか察するに餘りあるものがあるのである。事實先生はこの兒童水泳大會を何よりの楽しみとして待たれたものであつたが、昨年の第七回大會には御病氣のため遂に迎へ得なかつた事を残念に思ふ。大會直前御報告に伺ふと「もう大丈夫だから何とかして行くよ」と言つて病を押して行く氣構をされるのでお止めするのに閉口した位である。先生にして見れば一層残念でならなかつたに相違ない。

プール増設の問題は常に先生の念頭から去つた事はなかつた。この方の運動にも努力を惜しまれなかつたのであるが先生の熱意には全く敬服せられたものである。聯盟が曩に「小學校の水泳」を刊行したのも、又昨夏「水泳讀本」を發刊する運びとなつたのも先生の宿願に依るものであり、且つこれを達せしめんとする御鞭撻が然らしめたものであると云ふ

事を忘れてはならない。

即ち事水泳の普及或はその發達に資せられるものであれば「何でもよい。萬難を排して行れ。」と云ふのが先生の持論であり、指導精神であつたのである。

我々はこのお言葉を常に思ひ浮べて我々に遺された尊い御教訓であることに銘記し、これが遵奉に努めなければならない。

尙先生が日頃主張されてゐた中に水泳章制定の如き未だ實現に至らないものがあるが、これは我々に課せられた問題として遺されることになつた。その他にも幾多の懸案があり、前途には豫期せざる問題も起るであらう。我々はその都度先生の御遺訓を奉じて、國民皆泳の旗標の下にそれ等の實現に邁進しなければならないと思ふのである。

先生が手鹽にかけて育て下された我が聯盟をして一層鞏固なものとなし、更に健全に發展せしめんが爲めには、從來通り水上聯盟並に關東水泳協會の御指導と御援助を仰ぐべきは勿論であるが、我々同志の者が先づ率先して使命の達成に努めなければならぬこと言ふまでもない。かくして我が小學校聯盟の本來の目的を完遂するを得るならば、それこそ先生の御遺志に添ふことになると共に恩愛に報ゆる所以となるであらう。

茲に恭しく先生の御徳を追慕し、其功績を永久に傳へると共に謹みて御冥福を祈り奉る次第である。

## 女子水泳技術講習會

講師 松澤一鶴、白山源三郎、笹島彦次郎、原秀夫、磯野百男、白山廣子、竹内菊枝、横山糸子

指導員 野口徳子、古田つね子、大澤政代、須藤菊代

1. 一般競泳 (3月22日—4月26日 毎週金曜午後4時—5時)
2. 日本泳法 (3月19日—4月23日 毎週火曜午後4時—5時)
3. 水球 (3月23日—4月27日 毎週土曜午後2時—3時)
4. 飛込 (3月18日—4月22日 毎週月曜午後5時—6時)
5. 有職婦人水泳 (3月19日—4月23日 毎週火曜午後6時—7時)

講習費 一回券 六〇錢 (全種目に共通)  
六回券 參圓 (全種目に共通)  
廿四回券 拾圓 (全種目)

有職婦人講習券 貳圓五〇錢 (他に通用せず)

體格検査 講習開始の前日までに體育部に於いて體格検査を受けること。検査時間は毎日午後三時—七時迄(但し土・日を除く)

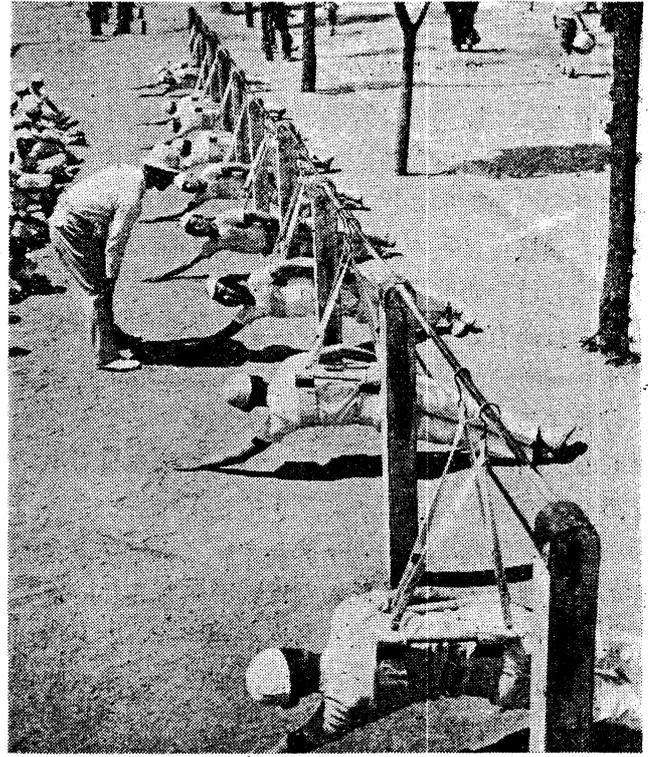
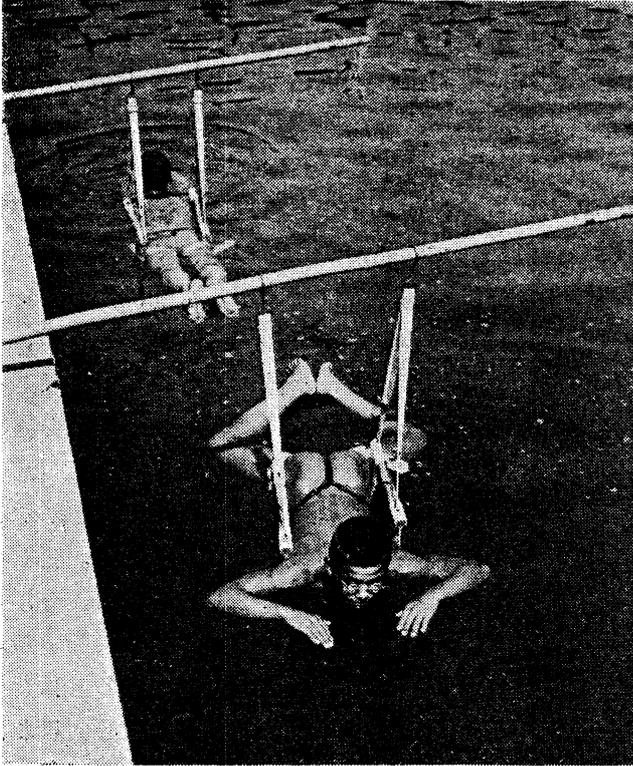
申込 YWCA學院庶務受付にて申込み、會計で講習券購入のこと

注意 水着、タオル、石鹼は體育部備へつけのものを使用。水帽子、(ゴム製、又はゴム引布製、丸帽子)は各自持參。

# 『陸上水泳器』の創案に就て

大阪府諏訪ノ森水練場長  
大阪府立市岡中學校教諭

植田三四彦



泳法練習の合理化に就て私は相當前から考へさせられて來た。それは毎夏千名近くの女子を集めて管理指導する度に、如何にして金槌嬢を指導するか、又中學校に入つて來る殆んど泳げない子供に對して如何なる方法が最も有効であるかに悩んで來た。

古い武道の師範が一に稽古、二も稽古でたゞき上げるうちに自から劍の奥義を體得すると云ふ方法をとつて幾多の劍聖を生んだが、時代の推移と共に武道の指導も教授要目の制定と共に合理的理論的指導に變つて來た。然し水泳の指導はまだ著しく古武道的練習の範を出づるに遅々たるものがある様に思はれる。手の運動とのコンビを理解出来ない砂の脚の練習にしても水中の支持練習にしても、水の恐怖のある初心者にはなかなか簡単に出來ない。

私は先夏ベルリンに於ける獨逸オリンピック選手の練習にヒントを得て、合理的指導の有効なる方法として創案したのがこの『陸上水泳器』である。

本器は次の五つの特長を具備して居る。

## 一、使用輕便

鐵棒、横木其他如何なる場所にも吊し、他人の

手を借りずして自由に練習出来る。

## 二、服裝 季節を選ばず

水泳衣の外シャツズボン等の服裝にても自由に行ひ得るが故に體操の一齊指導として能率を擧げることが出来る尙冬季練習に使用される。

## 三、泳法の指導 矯正に適正

平體 横體の姿勢にて何の拘束を受けず、頗る樂に愉快に指導矯正をなし得る

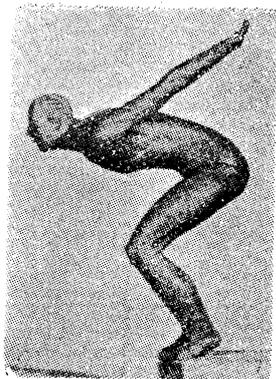
## 四、水中練習に應用

竿先等にて水中に吊し、極めて敏速に泳法の修得をなさしめることを得。

## 五、保健運動器として有効

文明人の特殊體質として、内臓下垂症がある特に消化器の下垂によつて、食慾不振、便秘、消化不良、下痢等の症狀に苦しんで居る人々は枚擧に違ない。最近歐米に於てはこれを治療整形するため、這ふ様な自然運動を獎勵して居る。本器による平體泳法の練習及自然的運動によつてこの病根を除去し得る。

幸に御高評を得れば望外の幸である。



# 水 泳 生 理

醫學博士 金子 魁 一

體育を指導する者は醫學的研究と理學殊に力學的智識とを必要とする。それは體育運動の原動力は人體の生理的作用によつて生ずるエネルギーである。其の力を合理的に作用する爲には力學の方則に従ふ事を要するのである。殊に水泳の領域ではこの外に水の抵抗、人體の比重、浮力、重心等を研究する事が肝要である。

西洋では體育といふものは、體育醫師、コーチ、トレーナーの三者が具備しなければ、眞の發達はとげ得ざるものであると云はれて居る。蓋し至言であらう。斯くあつて體育向上の實を擧げる事も出来ようし又各種の競技に於て選手權を獲得する事も困難でない。又醫學的のコーチなき「スポーツ」は存在の意義なしと思ふ。此の點は我國體育界殊に日本體育協會や監督官廳の深く考慮を要するものと信ず。茲に水泳生理の一端を草して、初學者の参考にしたのも以上の理からである。

水泳の生理を述ぶるに當つて、水泳時に於ける内臓の作用と臂脚の動作との二項に分つ事とする。

## (一) 内臓の作用

可なり烈しい水泳動作に堪へ得る爲には、内臓が弱くてはだめだ私は之れについて曾てオリンピック選手の合宿所たり Y・M・C・A の晚餐の席上でお話しした事であるから恐らくは彼時席上に居られた諸君は「醫者が一場の空理を述べるに過ぎない」などと考へられたであらうが、其の後米國に渡りて當時自由形の花形選手が病氣にかゝつた爲四百米競泳に「いかれ」た事を今にして思へば、吾人の言ふ所は決して誤りでない事を覺つたであらうと思ふ。假令斯の様な超人的の選手であつても病氣に胃かされては如何なる競技の種目であらうとも勝を制する事の困難であらう事は多言を要しない事である。

偕而人間の諸内臓何れも生命に必要なものばかりであつて其の一つが胃かされても致命的であるのであるから、素より全身的の攝生を守る事は必要であ

るが、年齢、性、職業、體質等に又は競技の類に依つて、殊に或内臓が抵抗弱く病氣にかゝり易いと云ふ事があるから注意を要するのである。

特に水泳選手の年齢、其の他の「コンディション」から考へると、注意すべき事は、心臓、肺、胃腸腎臓を強壯にして疾患にかゝらぬ様にする事である。

(1) 心臓の弱い人は始めから水泳に適しないので到底競技などを行ふ事が出来ないのであるが、心臓が可なり強い人でも、水泳に依つて病變を招き易いと云ふ事は友人故福島東作博士に依つて充分證明されて居る事であるから此の事は充分の注意を忘れてはならぬ。競泳の時に動くのは肢脚であるが之れにも優りて激しく働く所は心臓と肺である。併し競技の際に激動するのは臂脚ばかりと思つて、外から見えぬ心臓に注意ぬせと不測の災を招くのである。

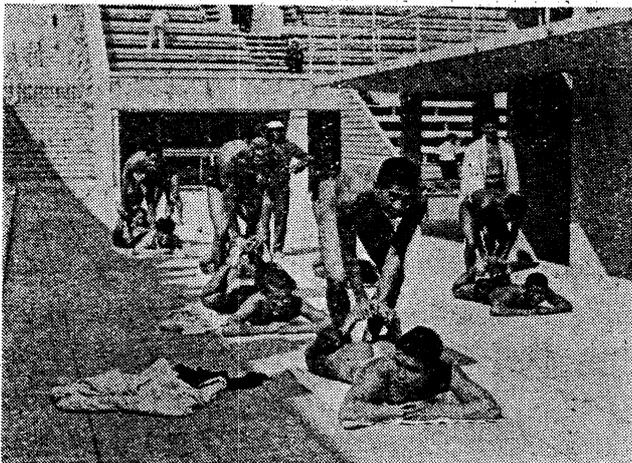
此の故に選手たるには、激動に堪へ得る心臓を所有して居る事及心臓の力を害せざる様に心掛けねばなるまい。それには酒、煙草、其の他の刺戟性な飲食物を用ひぬ事、高熱を發する様な疾病にかゝらぬ様にする事、操行を慎しむ事、不規則で急激な動作を繼續してやらぬ事等々に注意して常に不規則な生活をやらぬ様にして欲しいと思ふ。

(2) 肺は瓦斯交換に主要なる臓器である。そして激しい運動をやると呼吸は特に切迫して來る。これは其運動を營なむ爲の酸素が必要であるからである。又疲勞素は酸化して炭酸瓦斯の形で排出する必要があるからである。疲勞極度に至つた時は、酸素を吸入さすことが如何に効果的であるかは此の理に依つて察することが出来ると思ふ。斯くの如く肺臓は水泳に重要な器管であるから肺臓自身及び其の一部たる氣管や其外側を包んで居る肋膜等に故障を起すことは、水泳動作の能率が低下するのみか時として選手として不適當な身體にして仕舞ふ事もある。

(3) 胃腸は前二者から見れば、其重要性が少なう様ではあるが決してそうではない。運動に依つて

消耗されたる身體の成分は之れを食物から補ふより外に途はないのであるから、胃腸こそ實に體力回復の首府と云ふべきである。斯く考へて見れば「スポーツマン」は注意して胃腸の攝生を守るべきである。水泳の後に消化が不良を起すことがある。之を「アキレアガストリヤ」と云ふ。特に水泳者は水によつて冷え勝ちであり、又他の「スポーツマン」の如く暴食に陥る憂ひがあるから特に此の點に於て注意することを要する。

(4) 尙腎臓なども水泳と密接の關係を有する臓器である事は、水泳後の尿に殆ど例外なく一時的に蛋白が現るゝことに依つても充分窺ひ知らるゝのである。一般に水泳者は年齢の上から考へても腎臓が可成り強い時代であるから病者ならざる限り特に憂る事もなからう。「アキレア」や蛋白尿の起る理由は全身の血が臂脚の方に偏在して内臓は一時食血状態になるからである。



(船中に於ける補助運動)

## (二) 筋肉關節

筋肉の力を強め關節運動を鍛練する事が水泳のみならず凡ての「スポーツ」に於て其の運動の主體は筋肉の力と關節の可動性である。

而して其の競技の種類によつて主として働く所の筋肉關節を異にするのである。故に筋肉關節等の全身的發達の状態を見て其の人は如何なる「スポーツ」に適するやを決する事が出来る。コーラウシユは、斯の理に由つて「スポーツ」型を分類して居る。又或「スポーツ」をやつて居ると筋肉關節がそれに適當した様に發達を遂げるものである。かくの如く水泳者は水泳に適した體格を養成する事が必要である。そして或選手が好記録を出し得たとするならば其選手の身體は其の記録を出し得る様に發達してゐ

る譯である。であるから種々苦心して得たる自己の好「ペース」を低下しない様にするには先づ其の體力を保持する事に勉めなければなるまい。

渚水泳者は如何なる筋肉が發達を遂げて居るかと考へて見ると、それは素より其の種目に依つて相違の生ずる事は勿論である。

曾て伊太利からバルバッチが日本泳法を研究に來た時に、我が松澤氏は「日本泳法を研究する前に、日本人の座り方を一ヶ月練習するがよい」と云つたと聞いて居る。事の眞偽は知らないが蓋し至言であると思ふ、此の言葉は尙陸上の跳躍選手が優勝した所以に當てはまるであらう。一般に水泳選手は臂脚がよく發達してゐる。先「クロール」の場合を考へて見ると、下腿では腓腸筋、大腿では四頭謂筋、大臀筋等が發達して居る。之れは「ビーテキング」と云ふ動作に必要な筋群である。平泳に於ては、下腿は著しき相違もなけれ共、大腿では内轉筋が著明な發達を遂げて居る、背泳では殆ど「クロール」の時と同様であらう。之等の諸筋は「すわる」「立つ」事に依つて發達し來つたのだ。

又上肢の方では「クロール」では三角筋及び背部から上膊上端に來てゐる背筋が著るしい、平泳では主に三角筋、大胸筋が發達して居る。背泳では三角筋、三頭筋、體捻轉筋、股關節捻轉筋、背部の諸筋である。而して何の泳に於ても水をかくのは手掌であるから従つて其の運動を司つて居る前膊筋、特に伸筋が強くなつて居るのである。右の外、頸・項・腹等何れの筋肉にも相當發達を見らるべきも、主要なるは以上の筋であると思ふ。斯様に筋肉の發達を來たす事は水泳時の「關節運動」の状態を調べると了解されるのである。

一體人間の脚といふものは體重を荷ひ且つ運動を司つて居る。而してその運動の主なるものは歩行である。歩行は一種の反射運動で律動的であるから疲勞する事が少い。それで一里程歩む脚筋の運動量を他の部位に課したなら非常に疲れて仕舞ふが脚では左程でないのである。

歩行は地上に於て位置變換のために行はる運動であるが水上では同目的に游泳を用ゐる。而して游泳の脚は體重の負擔なく唯運動によりて行はるゝ者で、それだけ歩行より純粹な運動であると云ふ事が出来る。それで脚部の運動量が少ない筈であるが實際左様でないのは水の抵抗に依るものと思ふ。

歩行に適した人間の脚を以つて游泳し様とする場合は成る丈け歩行と同様の動作を用ゐねば、不自然である。斯様な泳法を優秀な者とは言へない。

斯様な方向から考へると歩行に近い脚の動作は扇足であり、次はクロール、バツクのビーテングであるがブレストの脚や蛙足は少くし其趣きを異にして居る。前者の動作は歩行時の如く體の前後面（矢状面）に行はるゝが後者の動作は左右面（前額面）に於て行はるゝから歩行時とは異つて居る。又立泳の浮足巻足等に至つては歩行動作から遠ざかつて居るので少く不自然である。

又游泳に熟達するためには浮を持つ事が必要である。人體の比重は平均 0.9463—0.9654 で水より僅に軽いので浮きを保つと云ふ事は難くない。但泳ぎの基本型例へば平體横體をとりてそのまゝ不動の姿勢で浮く事は修練を要すると思ふ。浮きがうまくなつた所に臂脚の動作を加へて前進するのである。

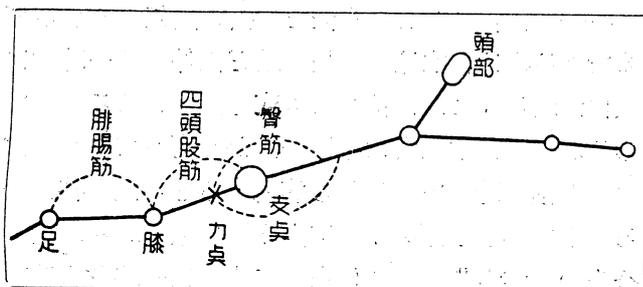
肢脚の動作を考へると軀幹を船體とすれば脚は櫂であり臂は櫂である。櫂といふ者は柄が可なり長い水搔くところは扁平になつて居る先端であるが人間の臂では指掌の部がそれに當るのである。ところが指間を開いて水を搔いて居る人があるが之は誤である。臂を動かす主要部は肩胛關節であり、脚を動かす主要部は股關節である。之等の關節を動かす筋肉は大概軀幹から來て居るのであるから、泳ぎは決して臂脚筋に依りてのみ行はるゝのではない。

練習の時に板子等を持たして脚のみの運動を練習する事を原則として居る。之は非常に合理的の事と思ふ。何故かと申すと、運動するのは脚部が前進的に働くのみであるから、此の場合腦の運動神経は此の動作だけを司配して居れば宜しいのである。若し臂の運動を之れに加へると注意を臂脚兩部に集中することが困難である。かくて脚の運動が完全になつて注意を要せずして反射的に行ひ得る様になつたら今度は臂の動作の練習をやる。かくて臂脚の動作が熟した時に初めて泳いで臂脚の動作の綜合運動を研究する様にすべきものと思ふ。即綜合運動を司る神経が充分に發達して始めて能く泳ぎ得るのである。凡て泳ぎといふものは基本が良く出來て居ないといへない。一度悪癖がついた泳法は中々直しくないのである。泳ぎを覺ゆるには、理論を考へず只無茶無苦茶に水に飛込といふ事はよくないと思ふ。次に競泳の三體クロール、平泳、背泳に就いて臂脚の主

なる關節の運動と之れに參與して働く主なる筋肉の作用について述べたいと思ふ。

### クロール

脚では股關節が主動部で前後の方面に屈伸し、膝伸展位でしなやかである事を要し、足の關部は伸展内轉の姿勢で柔かに水を打つのである。股關節を動かす筋肉は何であるかといふと其主なるものは腸腰筋といつて背柱から下りて骨盤の中を通り大腿骨上端の小轉子に付いて居る筋肉である。また此關節を



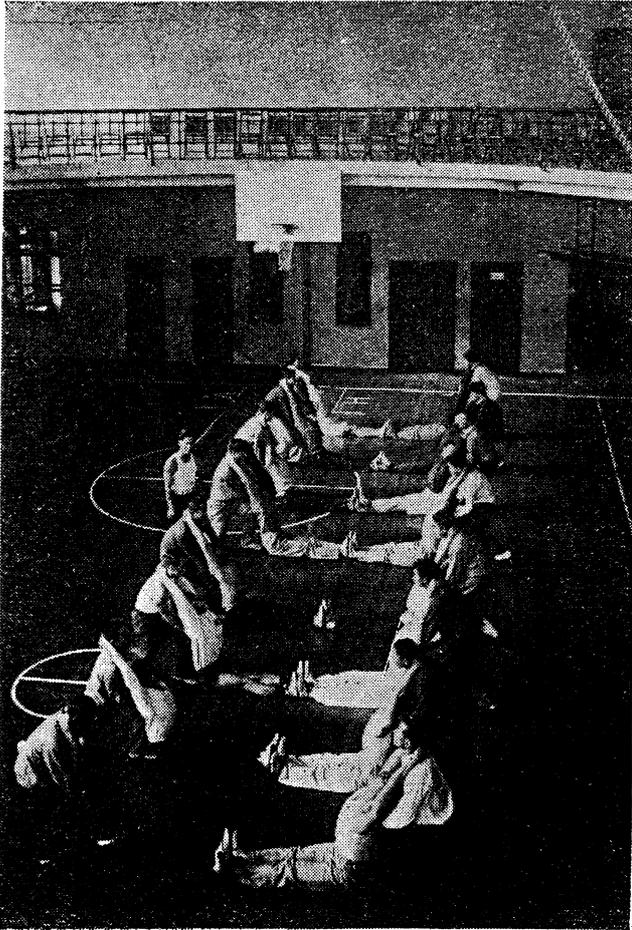
伸ばすのは主として臀筋であり之は骨盤の後方から大腿骨上端の大轉子に附いて居る全身中筋繊維の太い大筋である。而して股關節の可動性は生理的に伸展百八十度で屈曲九十度、といふ事になつて居るが、伸展位から尙後方に余分三十度だけ所謂過度伸展を營み得る事になつて居るが、クロールを泳ぐ時の股關節の動作を見ると單に屈伸でなくして過度伸展から伸展位に持來す運動であると思ふ。また膝を伸す爲には四頭筋が働く、之は水泳に最も必要な筋肉で日本の選手がビーテングが強いのは此筋が強いからだといはれて居る。足關節を伸ばすに作用するのは腓腸筋であつて足首の後にアキレス腱となつて附いて居る。此の筋は泳ぎには最も多く動くので時として痙攣を起すこともある。

以上の如く筋肉が作用し關節を動かして動作となり推進力となるのである。而して關節に作用する筋の状態を力學的に考へると何れも槓桿作用である。

例へば股關節の動作を見ると關節部は支點であり筋の附着して居る部位は力點になり脚の重量が重點である。此の種の槓桿は力に於ては損であるが速さには徳な作用を有して居る。即ち關節部で行はるゝ僅かの運動は足端に至れば數十倍の大きさとなるのである。膝や足の關節は、餘り屈伸しない事になつて居るが、以上の理から考へると之等にも槓桿的作用が作用し得るのであるから、柔軟な伸展位をとらせる事が出來得れば非常にビーテングが強くなるのである。優秀な選手は何れも斯様な動作になつて居

るから此作用は尙よく研究したいと思ふ。

次に臂の動作を調べて見ると臂を伸ばして水を捕る垂直の方向に水を搔き、次で水の抵抗を避け之を水面に抜き前方に運びて次の動作に移行するのである此の場合も臂を伸ばすには、前膊筋と三頭上膊筋(脚の四頭股筋に相當す)を働かす。之を働かして水を搔く、それ等の筋肉は胸脊から肩に来て終つて三角筋は脚の臀筋に相當し臂の動作に最主要なる役目を有する筋である。而して此所にも亦槓桿作用が



(練習前の補助運動)

行はれ居るのであるが其の説明は略す。

かくて臂二動作脚大動作が綜合してクロール泳法が成立する譯である。但し脚の動作は前方にビーディングをやるのか又は後方に蹴るのであるかは兩者共同平面で行はれ得るので一寸迷ふのである實際に於てもタリスやクラブの泳法は後者の動作である、そうであるが多くの選手はビーディングを用ゐて居る。

次は背泳について。脚の動作は大體クロールのそれに似て居る此の場合にも水を蹴上げるか下方にビートするか二様の動作がある筈である。此の場合にはビートする氣持が宜しいと思ふ。映畫で見るとキ

ーフアーの動作は足關節の動作が如何にも柔軟で恰も鰭の様に動いて、蹴上げるともビーディングとも云はれぬ。泳の個性は斯様な點から派生する事と思ふ。併し關節運動の槓桿作用はクロールの場合と同様である。併し臂の動作は餘程異つて来る。例へば臂を空中に運ぶ際に伸展したまゝ頭の前に持來りて水を捕捉する甲型(キーフアー・ヴンデウェー等)と少しく臂を曲げて臂を運ぶ乙型(河津)となる。

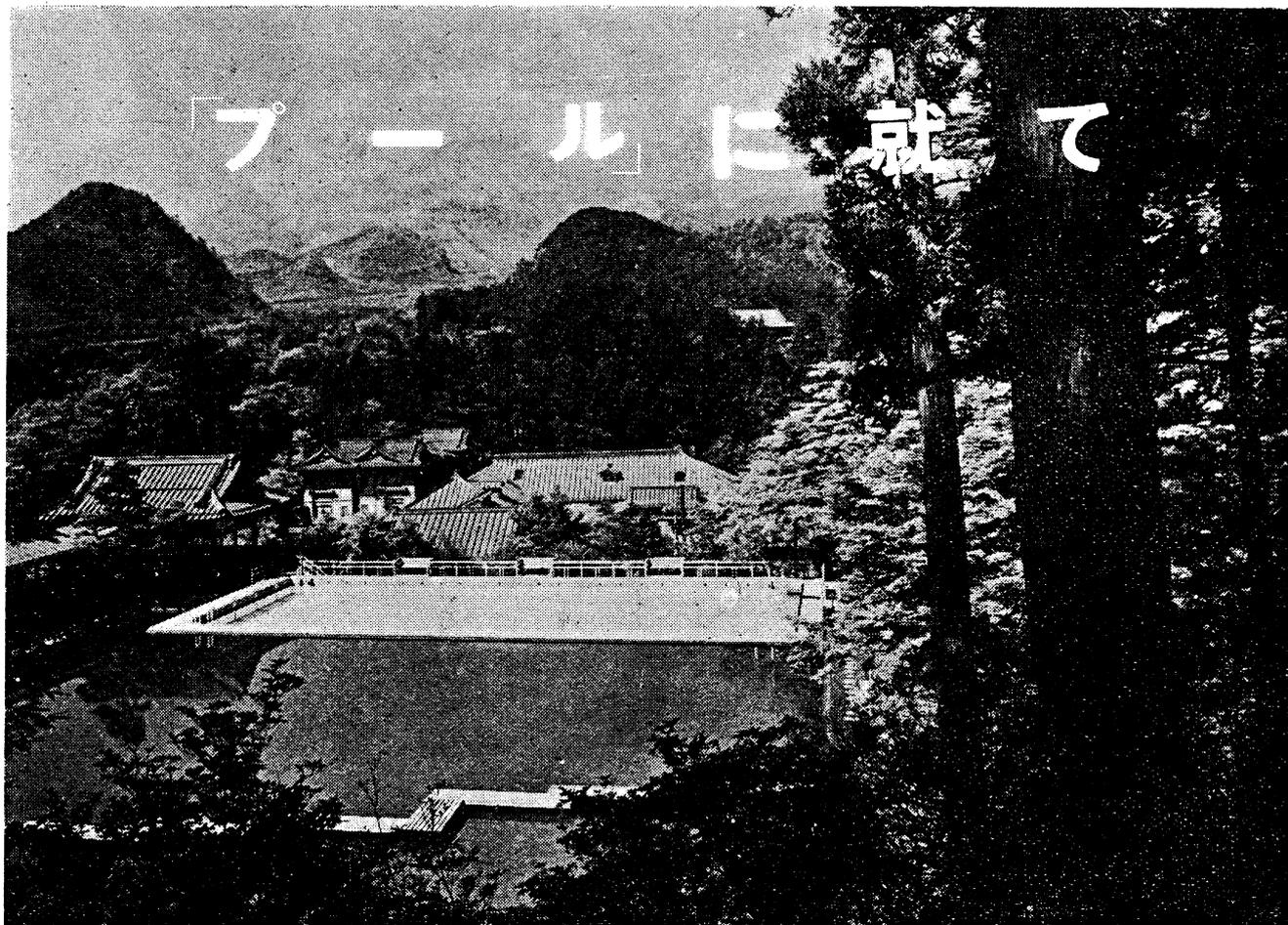
何れにしても臂を運用するのは肩胛の周圍の筋肉であるが動作によりて其主動筋が異ふ。甲型の場合には主として三角筋が働くのであるが乙型の時には、三角筋胸筋脊筋の合力が作用する其の中で何づれの筋を使用するかによつて泳の個性が出来る。

之等の動作の中三角筋を主働とするよりも諸筋の合力動作による方が疲勞も少ないと思ふ。それから水を捕捉して搔くときに深く搔くが良いか淺く搔くが宜しいかは研究の餘地があると思ふ。但し深く搔けば強きストロークを得るが淺く搔けばビッチを上げるに都合がよい。此點はボートのオールと同様であつて、茲からも泳法の個性が生れる事と思ふ。

それから胸泳に就いて。指導要項を見ると「大腿を左右に開きながら膝を屈げる。充分に縮めて、一度に兩足の間を開き水を踏み乍ら伸す」と書いてある。それで脚の動作は左右平面に行はれるのであるが大腿を開く爲には主として外轉筋が働き、膝を屈るには二頭股筋、半腱様筋、半膜様筋が働き、伸すには四頭股筋が働く、次に踏みながら伸す爲には内膊筋、四頭股筋が働くのであるが、足の動作は多少上下が生ずるのは、已むを得ないと思ふが、立體に近くなる傾向の人がある。かゝる人は多少動作が變はる。即ち足で水を踏み乍ら伸すと言ふよりは蹴り乍ら伸す様になる葉室君などは之に近い動作を採つて居る。斯様に平泳にも個性が生れて来る。

臂の動作を見るに前方に伸すには三角筋、大胸筋が働き之を開く爲には三角筋濶背筋等が主働となり臂を縮めるためには二頭膊筋が作用するのである。以上の外種々なる筋肉の合成により臂に於ける前進力となる。而して臂脚の動作が綜合して平泳となる。此の際臂脚の動作が相殺すると前進力を妨げるのである。第一流の選手でも練習を怠つたり、コーチを受ける事を嫌ふと此弊に落ちて仕舞ふ。

泳法の動作については「標準泳法」(水泳指導第一編)を熟讀すべき事を推奨す。以上説く所は水泳動作に參與する主要筋の作用であるが、之等の他殆全身の筋肉が働くものである事を忘れてはならない。



(カット) 日光金谷ホテルプール

## 日本水上競技聯盟 深谷 俊明

### 時局と「プール」

「水泳」に「プール」が必要であることは多言を要しない。我 N. S. R に於て多年の理想であつた N. S. R 所屬 プール設置運動が漸く具體化されんとする時、全国各地學校、會社に於て紀元二千六百年記念事業としてプール建設計畫が起り、又時局柄「プールの防火池としての効果」が再検討されつゝあることはプール認識の證左として誠に歡ばしき傾向と考へらる。併し乍ら事變下の爲プール建設必要材料である鐵筋、セメントの購入は極めて困難を伴ひ聯盟建設測定委員會への照會も相當の數に上つて居る。一般土木、建築工事最近の傾向として鋼材節約の國策に沿つて設計上にも相當な變化をなし、鐵筋コンクリート工學に於ては鐵筋量の輕減を圖れる經濟斷面、コンクリートの強度増加、施工法、或は竹筋コンクリート、無筋コンクリートの研究が盛に行はれつゝあり、プール建設も從來と異つた方針で設

計さるべきものと考へ、筆者はプール側壁にアーチ、重力式擁壁、底部と仰拱 (inverted arch) の應用、基礎杭の配列、コンクリート施工繼手、伸縮目地、コンクリート配合並に施工法、又簡易プールに就て本號に執筆する豫定であつたが——聯盟松澤、大橋兩氏より極力勸説せられたのであるが——圖面製作等の關係より遺憾乍ら之等に就ては次回に譲ることとし、今回はプールの現状、並に將來の傾向に就て一言することとした。

### 「プール」の普及状態

我國のプール數の調査に就ては昭和 8 年 6 月文部大臣官房體育課に於て詳細に調査せるものあり之を基礎として現在數を表 1—より推定せば大正 5 年 2 月開設の大阪府立茨木中學校 50 メートルプールを嚆矢とし全國に約 1,000 箇以上のプールが存在することとなる。此の「曲線」より大正 13 年 10 月 31 日創立の本聯盟の水泳界に盡せる努力の經過並に

(縦の数字はプール個数 横の数字は年次を表はす)

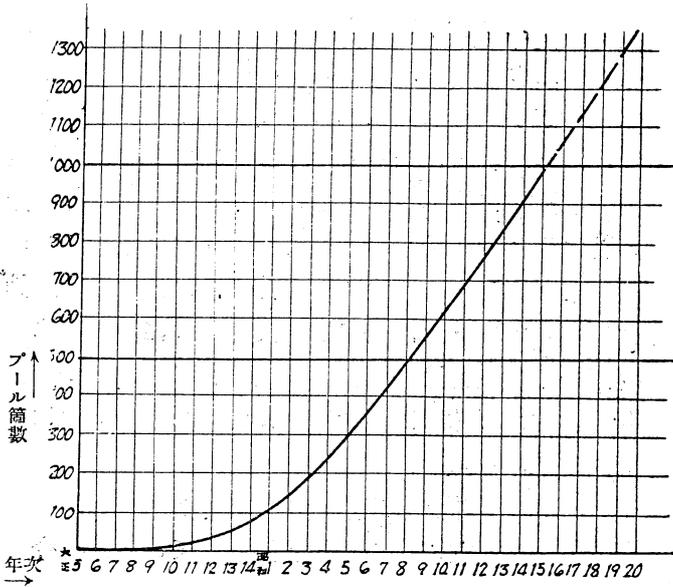
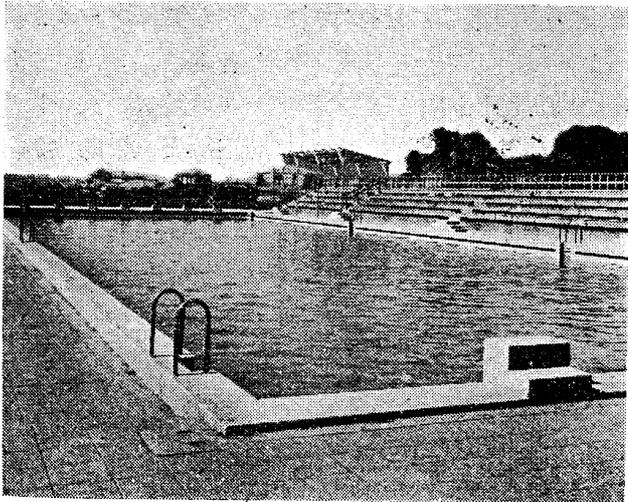


表 : -1 年度別プール開設累計表

「水泳日本」向上の状態も窺へるであらう。此等プールに育つ數多くの黒い河童連の第二國民を考へるとき我國水泳の普及所謂末弘會長のピラミツドの偉大なる底邊を偲ぶべく、又世界に其類例無き許容誤差を明示せる公認競泳池に於ける競技大會に覇權を争ふ選手諸君を見るとき、其のピラミツドの尖端が窺へるだらう。次に我國に於けるプール普及状態を府縣別に其概數を調査せば

東 京	100
大 阪	65
靜 岡	40

之に福岡、京都、岐阜等繼ぎ、皆無の縣は青森 1 縣のみであつて、隣縣岩手、秋田には大正 14 年既に開設を見て居るにも拘らず地理的とは云ひ乍ら甚だ



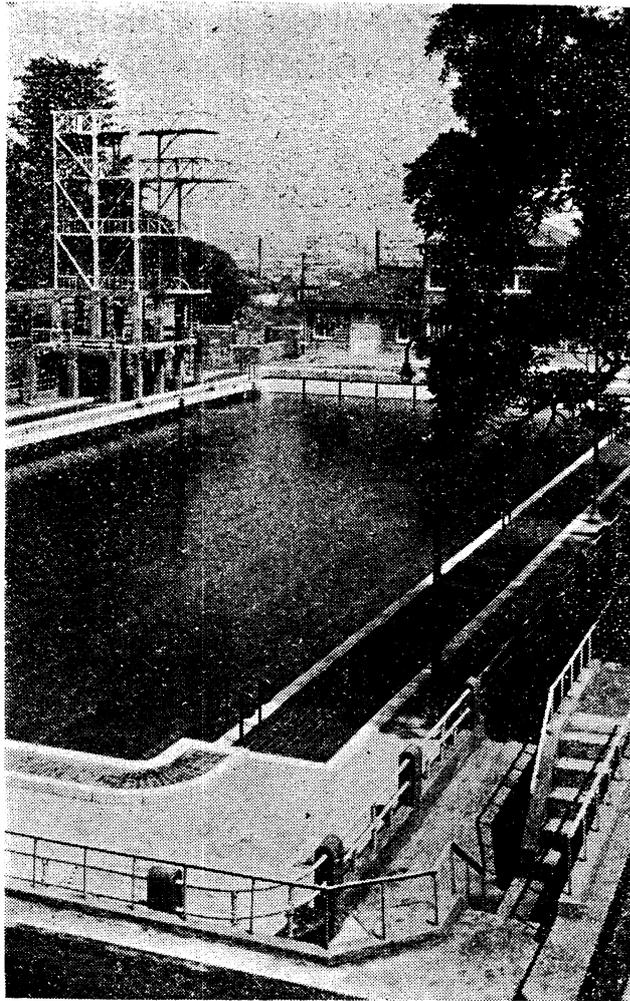
(高雄榮町プール)

遺憾である。併し乍ら海を渡つた北海道には相當數あり、尙最近では樺太にも國境附近に三菱鑛山に於て建設計畫あることを聞いて居る。南へ下つて沖繩

縣には那覇市營プールが唯一あり、臺灣には臺北、臺中、臺南、高雄(2)、尙其他に相當多數あり、朝鮮に於ては代表的なものとして京城、釜山を擧げることが出来る。

次に本聯盟にて登録せる公認競泳池を府縣別に表に示せば次の表 : -2 の如くなる。

北 海 道	1
青 森	0
岩 手	0
宮 城	0
秋 田	0
山 形	0
福 島	0
茨 城	0
栃 木	1
群 馬	2
埼 玉	0
千 葉	1
東 京	11
神 奈 川	6
新 潟	0
富 山	0
石 川	1
福 井	0
山 梨	0
長 野	1
岐 阜	2
靜 岡	13
愛 知	8
三 重	1
滋 賀	0
京 都	6
大 阪	2
兵 庫	8
奈 良	1
和 歌 山	4
鳥 取	0
島 根	0
岡 山	0
廣 島	3
山 口	2
徳 島	2
香 川	1



(横濱元町プール)

愛媛	媛	4
高知	知	2
福岡	岡	4
佐賀	賀	1
長崎	崎	1
熊本	本	1
大分	分	1
宮崎	崎	1
鹿児島	島	1
沖縄	繩	0
臺灣	灣	2
朝鮮	鮮	2
樺太	太	0

(表 : -2)

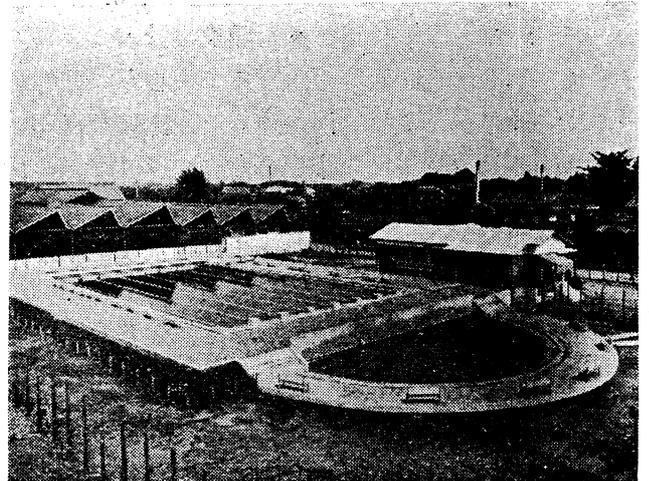
即ち水泳王國静岡は公認競泳池 13 を有し東京 11 之に繼ぎ、大阪の 2 は奇現象であるが此の公認競泳池を有せざる縣として青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、埼玉、新潟、富山、福井、山梨、滋賀、鳥取、島根、岡山、沖縄の 17 縣があるが、

地方に水泳普及運動の必要が感ぜらる。

我國人口より「プール 1 箇當の人口」を求むるに約 10 萬となり、尙將來に於けるプール増設が痛感せらる。筆者は我田引水でなく、又「プール引水」ではないが利用の點より云へば「プール建設」は他の運動設備に比し高價なものとは考へない。即水泳の特異性の一つは老若男女を問はず共に樂めるスポーツであることであつて、此特異性は他の運動設備に比較してプールに於ても見受けられ、茲に N. S. R 提唱の「國民皆泳」も自ら醸成されるのであつて、此特異性は野球場にも武徳殿にも見られない美はしいものである。

### 「プール」と最近の傾向

プールは現在前述の如き普及状態であるが、今事



(伊勢崎町の水泳場)

變に際して其の二次的効果が認識されて來たことは注目すべきことであつて、即ち最近では「防空用水池」「防火池」等と變名された立派な競泳プールが——中には公認プールとして——各地に出現して居る。國民體位向上に資するプールは震災、火災に對して極めて、効果的であつて防空壕と共に防空施設として検討されつゝあり、此建設は一石二鳥の策と云へるであらう。1 月 15 日の静岡市未曾有の大火に鑑み、國鐵名古屋鐵道局に於ては中原工務部長を中心に防火池としてのプール設置問題を考慮中の由にて 1 月 19 日の中外商業新報は次の如く述べて居る。即ち

### 鐵道プール

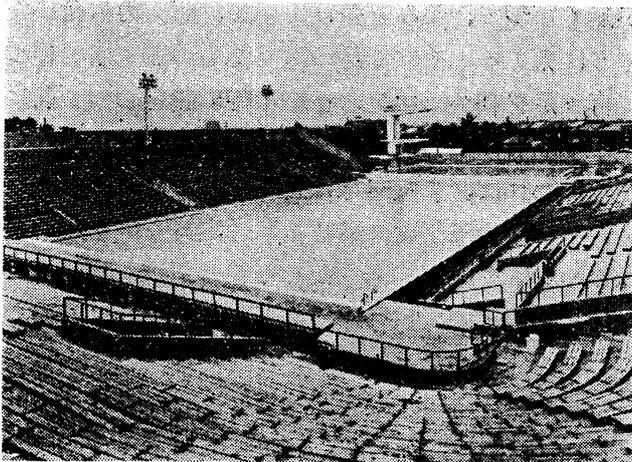
#### 防火と保健に主要驛に設置

今回の静岡大火で驛建物を始め運輸事務所、保線事務所、機關庫等鐵道主要建物を焼失した名古屋鐵道局工務部では豫て二千六百年奉祝記念事業のとし

て計畫中の鐵道プールは静岡、濱松、豊橋、名古屋等管内主要驛に洩れなく設くるもので空間地を利用して最少の經費で築造、夏季は職員の水泳用に、非常時には防火水源池として利用せんとする保健と防火の一石二鳥を狙つたもので實現は國鐵防火陣に一威力を加へるものとして期待されて居る。

最近内務省計畫局では全國各地に相當多數の貯水槽築造プランを持つて居る様であるが、此の築造費用は「プール」の夫と大差無きものであつて、之がプールとして各地小學校、公園に出現されるならば健康日本は期して待つべく、明朗日本は臆て生れることであらう。斯の如き問題は内務、厚生、文部當局に於て十分考慮さるべきものであつて、又プールとしての建設が困難なる場合にはプールの防空的價値並に體位向上に及ぼす影響を再認識し、各地に計畫中のプールに鐵筋、セメント等の建設必要材料補給の具體的援助が考へらるべきであらう。斯る場合土木建築技術家は最少の物資により最大の努力を以つて立派なる防空的プールの實現を圖るであらう。

ヒットラー總統が2、3年前ドイツ各地に2,000か3,000の簡易プールを例の勞働奉仕として築造計畫を發表したが之は第11回オリンピックベルリン大會以來水泳の青少年體位向上に與へる影響を勿論認識せし結果であらうが、又一面には總統が今日の戰爭を豫期して例の軍用道路網完成を急ぎたと

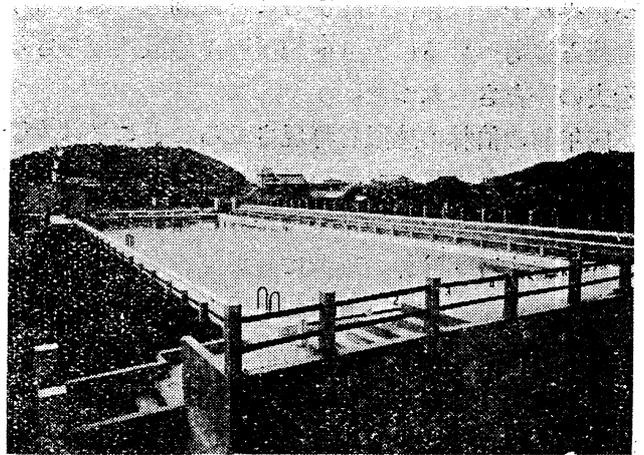


(甲子園プール)

同様にドイツ防空施設の一策としてプール建設計畫を樹てたのではなからうか。

次に我國に於けるプール建設状態を見るに都市、學校所有のものが大正中期より相當多數出來たのであるが、最近では玉三井造船所、中島飛行機、東京無線電氣、日立製作所、旭ペンベルグ等の工場に「貯

水池」又は「防火池」として築造され、又都、金谷、川奈ホテルに立派な25メートルプールが外貨吸の一助として完成し、箱根強羅ホテルに於ても計畫中の様に聞いて居る。併し最も顯著なる新傾向は最近海軍關係に非常に多數の完備せるプールが出現して居ることである。即ち鎮守府所在地には相當以前より其の設備はあつたが最近では鹿屋、霞浦、高雄、大村各海軍航空隊に堂々たる50メートルプールの完成を見、宇佐、鈴鹿航空隊其他相當多數計畫されて居る様であるが、之は我無敵海軍に於ても水泳指導、研究、衛生上よりプールの必要を認めし結果であつて、プールが唯單に競泳用のみに利用さるべき



(松山中學プール)

ものでなく、他に大きい意義を持つて居ることが證明されて居る。陸軍仙臺幼年學校に於てもプール建設計畫の由であるが、高崎〇〇聯隊に於ては夏期高崎市營プールを午前中一般市民の利用せざる時間を活用して非常に好成績を得て居る様仄聞するも將來斯の様な情景が各地に出現せんことを筆者は期待して止まない。

今事變に際して我勇士はクリークを渡り、揚子江を遡航して、常に水を征服した。國民の水への訓練は絶體必要である。「プール」に於ける訓練は臆ては海洋への進出である。古來我大和民族の海洋性に就ては萬葉集古事記日本書記に記する處であつて、水になづみ、海を恐れぬ氣概は大伴家持の「海行かばみづく屍」の歌詞によりても十分知られる處であつて、大和民族の肇國より海洋に活躍せしを偲ぶとき、又將來海洋への伸張を思ふとき、N. S. R 提唱の「國民皆泳」運動、并に「泳ぎの道場」たるプールの建設の必要が痛感せられ、紀元二千六百年記念事業としてのプール建設は意義深きものと考へらる。(終り)



# 女子平泳所見

日本大學水泳部 葉室鐵夫

女子水泳界の不振の聲をしばしば聞き、特に前畑によつてオリンピック女子競技最初の優勝旗を挙げた平泳は、前畑引退後未だ其の後継者現はれず、再び世界女子平泳界に君臨することは到底困難、否不可能と迄考へらるに至り前畑優勝の感激は返らざる過去の夢とさへなつた。

四年前の伯林の感激を再現させることこそは女子平泳選手に負はされた重い責任であるが又、他の種目の選手に誇る傳統を持つてゐるとも云へる。

此處に女子平泳界の現状に付いて、いささか私の感じました事を述べ、選手諸君の今後の精進の一助ともなれば、私としまして満足であります。

私自身が平泳の選手をしてゐる關係上、女子の平泳は務めて見る様にしてゐますし、自分のフォームの研究にもなるので、殊に私の平泳のフォームとしては女の泳ぎを見ると云ふことは必要なことで、今迄でさへ多くの良い點を見習ふことが出来ました。

今迄見た人の泳ぎで、前畑、壺井二人の人の泳ぎは私の研究材料として優秀なもので、随分自分の泳ぎに取入れた點があります。前畑の泳ぎに付いて云へば足の動かし方、特に蹴り初めの形は、前畑のあの體力に對して少し弱々しい様に思はれた。立派な堂々たる泳ぎではあつたが、足の蹴り方は體力に物を云はせて、今少し有効に使へたのではないかと思ふ。此の點は確に壺井の方が上手く動かしてゐたと思ふ。只獨逸の選手に見る様な體にまかせた大きな上下の動きがなく、滑かに進む點は實に上手い。

私に云はせれば、前畑の泳ぎは、あの立派な體格と體力、ファイテンングスピリット、運動選手としての精進で、あれだけの記録は未だ物足りないものがあります。今一段の泳法に研究を加へれば、未だ記録の向上が望めるだけの余裕があると思ふ。

此の點壺井は、其の泳法も記録も、體力に相應した最大限のものに近いと思はれる。尙、あの記録迄

に進まれたのも、前畑と云ふ良き指導者である目標があつたからである。

伯林オリンピック以後、即ち前畑引退後の女子平泳は更に壺井の引退により記録的に大きな後退を示してゐる。壺井、南里、中山と云ふ様な日本選手權の優勝者に付いても、記録が接近してゐる爲に、競技としては興味深いものがあるが、優秀な記録と云ふ點でいづれも満足すべき成績ではないと思ふ。

此の他に私が注目したものは、野中、天野、蔭山等の泳手がある。此の内、南里、野中の二人は、一寸特異な存在と云へやう。

南里の泳ぎは手の力が非常に強く、足の蹴りで余り體を浮かさないで、手をかく時に、體を持ち上げ、呼吸すると云ふ泳ぎ方で、小池の泳ぎに似た力強い泳ぎである。手が利く爲、百米には強味があるが、二百米となると續かない。

十四年の選手權での泳ぎは以前よりも、此の特徴が無くなつて、柔みを帯びて来て、耐久力も付いたやうに見える。やはり足の蹴りをもつと上手に使つて再々足を利かせて、水を蹴る時に體をじつと前に出しながら呼吸が出来る迄に浮かせることが出来るやうになれば、まだ記録は向上すると思はれる。

野中は、十三年度に素晴らしい素質を見せ、その泳ぎの鋭さや、年の若さから今後の活躍を期待されたが、十四年の成績はほとんど向上を見せてはゐない。私も幾分期待を裏切られた感がある。

スタートで浮き上つて後しばらく、ダブルストロークで行き、ラストにも、丁度バタフライの選手がゴール近くの接戦で手を抜いて、成功する様にこのダブルストロークで成功してゐたが、此の泳法は、呼吸が非常に困難となるのは止むを得ない。一度呼吸をして、二回手をかくのであるから二度目の時は呼吸をしない爲に前進の速度が落ちないから確に普通の泳ぎよりも速いわけであるが、呼吸の回数が少

くなる爲、疲勞が早く來ることになる。

此の泳ぎも手の力の強い人にしか出來ない泳ぎであるが、野中の泳ぎを見てゐると手が強いだけでなく足が非常に上手に強く利いてゐる。十三年度に野中を初めて見た時、十四年度は3分10秒内に入るのではないかと期待した。

然し此の泳ぎはやはり呼吸の困難な點が缺點であり、野中の足・手の強さと、その特異な泳法は、之をイルデフオンゾの泳法に改めて、成功するのではないかと思ふ。誰か日本でイルデフオンゾの泳ぎで成功する者が出てよいと思ふ。此の泳法は、野中の呼吸後の最初のストロークの様に手をずつと後迄かいて、かき終つた後、頭を上げて呼吸し、その間に手を伸ばして又水をかくと同時に、頭を水中に突込んでもぐるので、手をかいてゐる時は、丁度スタートの水中の泳ぎの様に呼吸をしないから手をずつと後にかいて、其の反動を利用してゆるいピッチで非常に速く泳げるのと同じ様になかなか速いものであるが、其の後の呼吸の時に速度が一時に止ると云ふ缺點はあるが、之をやる人は非常に少く、ほとんどイルデフオンゾ一人らしいが、私自身でやつてみても此の泳ぎの方が、確に手の力を良く利用した合理的な泳ぎだと思へる。

(ダブルストロークの缺點よりは此の泳法の缺點の方がづつと小さなものであり、成功するものである) 只、此の泳ぎをやつてゐると、手に頼りすぎて、足が小ひさくなり、バタフライの缺點の様に、足が小ひさくなつて利かなくなるおそれがある。これ以外にはピッチがおそいから200米には耐久力の爲には普通の平泳より更に強みがあるかも知れぬ。

他の3人の泳ぎは、大體同じ様なもので、泳法としても、前畑、壺井の正統派とでも云はうか、只比較して見て大分研究の足りないまづい泳ぎである。

蔭山は十三年頃は少し成績でもなかつただけに十四年度の成績もよい成績と云へる。泳ぎは足が非常に上手に利いてゐることで、女の泳手として、平泳の足の使ひ方は壺井級の上手さがある。之を伸ばしながら、手に移る處をもつと上手にして、手の力が増せば記録はもつと上げ得る。泳ぎとしては樂な良い泳だと云へやう。今後は手足の力が増せば増しただけ記録を向上させることが出來やう。

之に反して、中山の泳ぎは、相當なめらかに進むし、體力的には非常にめぐまれてゐて、もつと記録

を向上させ得る筈であるが、その泳ぎに鋭さが無い。

只漫然と泳いでゐると云ふ感じで、も少し頭を働からせて、足の蹴り具合、足から手に移る時、手から足に移る時を上手にやれば、もつと記録を上げることは、容易なことであらう、然し學校を出て、練習相手無しに、自分の記録を保持すると云ふことが、飛込等に比しては競泳は困難であるが、此の點は其の努力に敬服する前畑以上の體格を利用しても一段の向上に努力されたい。

天野はやはり足の力の強い、女子泳手としての特徴を生かしてゐるので、泳ぎが荒けづりと云ふ感が深い。もつと滑かに柔みのある泳ぎの完成に勉めねばならぬだらう。

此の他にも言はねばならぬ人もあると思はれるが選手個人の評は、泳手の身としては云ふ可きでないと思はれるが、之だけ突込んだことを云つてしまつた。まだ私の感ずることは、女子平泳選手の内、非常に良い素質を持ちながら、之を指導する人、競争相手、等が不足であると云ふことと、前畑等の巨星が居なくなつて、女子平泳界の雰圍氣が、200米3分20秒あたりに満足し、それ以上に向上しやうとしない爲、又、自己の素質を發見しないで向上の機會を失つていたづらに低調に止まつてゐる人が多いのではなからうか、現在の第一線の人々を伯林オリンピックの頃の雰圍氣に居させたならば、必づ前畑を追ふ程の人が出たであらう。誰か1人でも飛出さへすれば後はひとりでに續いて行くものである。

泳手は、常に現在の自己に満足せず、更に一段高いレベルに向つて努力すること、指導する人も之を今一層力づけることを切望致します。

尙各選手名は全部呼捨に致しましたから、失禮の段は御許し下さい。

昭和15年1月

甲子園にて

#### 附記

女子平泳陣に英傑出での待望は誰れしもが期待する所で前畑なき後の女子平泳陣だけに其淋しさも特に目立つけれど一方細かく昨年度と一昨年度に於ける十傑廿傑平均を見ると十三年度に於ける百米平泳十傑平均 1:34.25 に對し十四年度 1:34.26 廿傑平均 1:36.56 に對し十四年度 1:36.24 二百米に於ては十傑表平均 3:22.16 に對し十四年度 3:20.85 二百米平泳に於ては 3:26.09 に對し 3:24.76 と其成績の總體的にレベル進展の程が同ふ事が出来る。

# 海外情

(寫眞カットはブラジル丸のプールにて上より葉室、齋藤コーチ、遊佐の三君)

## ◎ブラジル便り

二月二十一日着電文……ゲンキデリオ「チャク」ハムロスデニコウテウスイエイニッポンノイリクシメスカクゴキタイニコタヘン」サイトウ

**第一信** —— ……前略此度の遠征については種々御配慮を感謝致します。又出發に際しては電報を有難ふ、香港を出帆してからプールも開場、本格的練習に入りました。船中で充分鍛錬して十分成果を収め水上日本の名を恥かしめない決心、皆様によろしく御傳へ下さい。 **ブラジル丸にて 齋藤 巍 洋**

## ◎遊佐・葉室兩選手活躍

二月廿五日 **フルミネンズ日本選手招待會**

フルミネンズ水泳場 (25米)

遊佐 正憲 100米自由形 58.4 200米自由形 2:16.0  
葉室 鐵夫 100米平泳 1:11.4 200米平泳 2:39.0

三月一日 **リオデジヤネロ水泳聯盟主催大會記録**

フルミネンズ水泳場 (25米)

遊佐 正憲 100米自由形 57.9  
葉室 鐵夫 200米平泳 2:39.6

三月十四日 **サンパロ國際水泳大會**

シースペリア水泳場 (25米)

遊佐 正憲 100米自由形 59.1 200米自由形 2:14.9  
葉室 鐵夫 200米平泳 2:42.9

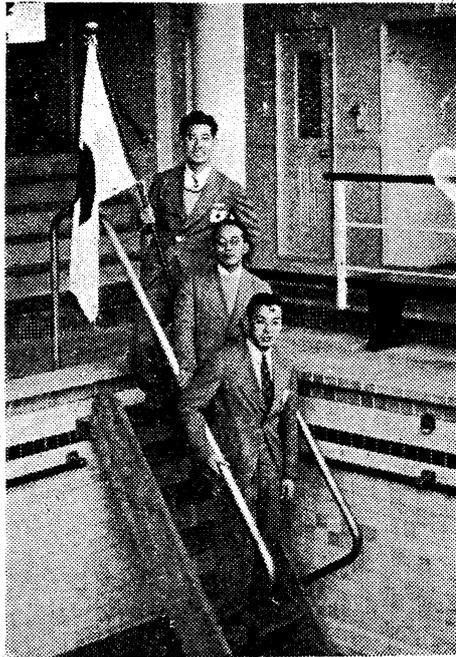
## ◎昨年度世界二十傑表増補大會記録

前號に掲載した拙稿世界競泳二十傑表は一九三九年度を打つたけれども雑誌發行の都合上、十一月末日迄に報告の到着したものを以て一旦締切つたので其後米國選手の南米遠征の記録、歐洲に於ける室内競技會の報告が到着した。その中にも相當見るべき記録があるので、増補として左の記録を加へる。

### 男子

百米自由形 廣瀬 隆(布哇) 58.7  
オットー・ジアレッツ(米國) 59.9  
二百米平泳 ボナス(比律賓) 2:47.9

### 女子



# 報 一 東

## 小山賢之助

### 百米自由形

ベビー・グレエノンダイク(和蘭) 1:10.2

### 四百米自由形

ナンシー・マーキ(米國) 5:22.2  
フェルナンデカロエン(白耳義) 5:23.4

グンフオール・クラフト(丁抹) 5:42.6

### 百米背泳

ビルテ・オベペーテルセン(丁抹) 1:16.3

トベ・ブルンストローム(丁抹、前號和蘭とあるは誤り) 1:19.0

G・マルコープス(和蘭) 1:20.4

### 二百米平泳

トニイ・バイランド(和蘭) 3:05.7

ドロテイ・ハイゼルアーズ(和蘭) 3:06.0

リッケ・ラルセン(丁抹) 3:07.0

センネセン(丁抹) 3:09.2

## ◎カロエン嬢五百米に世界新記録を作る

獨逸の白蘭國境突破の噂頻々たる本年一月三日白耳義ブラッセルの海水廿五米プールに於て、全國女子自由形のホープフェルナンデ・カロエン嬢は五百米自由形に六分二十八秒四の世界新記録を樹立して世界水泳界の耳目を聳動せしめた。從來の記録は例のヴェーガー嬢(丁)の有する六分三十四秒三であつて、百米と二百二十碼の記録を破つて女子世界記録十六種目の完全把握を目指すヴェーガー嬢に取つては侮り難い強敵が出現したわけに米國の年少マーキ嬢を加へた此三人の中長距離に於ける今年の活躍如何は吾人の記録的興味を更に高揚せしめるものである。之に對する白耳義水泳界の張り切り方は大いしたもので、カロエン嬢の昨年八月迄の五百米自由形の最高記録は七分七秒三であつたから近々六ヶ月の中に約三十秒を短縮したわけで、年齢もヴェーガーより一つ下で芳紀正に十七歳、世界記録十六種目掌握はこちらが先手だと許り戦雲にとざされた白耳義の人達は力瘤を入れてゐる。一方自己の保持する記録を五秒九と大きく破られたニウスを手にしたヴェーガー嬢は例の負じ魂に物を言はせ、昂然として曰く「五百米の記録は私の有する十四種目の世界記録の中最古のもの一つで早晚破らるべきものであつた。もレカ

ロエン嬢にして私と決戦するの勞をいとはれないならば、私は彼女と雌雄を決する事を躊躇するものではない。そして私は彼女を破ると共に従来久しく保持し來つた此種目の世界記録を再び我手に収める自信十分である」と。

彼女の屬するコペンハーゲン水泳協會では早速カロエン嬢に對し招聘狀を發し、白耳義水泳協會又之に應じて、春未だ淺き三月復活祭の休日を期してコペンハーゲンに於て兩嬢爭覇の繪巻が繰り擧げらる事となつた、猶ヴェーガー嬢は此程丁抹の水上市盟より終身の水泳場フリーパスを贈與された。

### ◎米國室内シーズン今や正に酣!

#### △エール大學先づ二勝

今やアメリカでは室内シーズンの眞最中である。先づ我水泳界お馴染のキッスをコーチとするエール大學は一月初めコウハーヴェンのホームプールにフランクリンアンドマーシャル大學を迎へ、65 對 20 を以つて之を撃破した。個人種目に於ては見るべき記録もなかつたが四百碼繼泳に於て、エドワード・ハウブ、ハワード・ジョンソン、バッド・サンボーン、ラッセル・ダンカンより成るエール大學のクオルテットは 3:31.6 の好記録を作つて、ミシガン大學及びオハイオ州大學の保持するインターカレッヂ最高記録 3:22.2 を破り同種目の世界記録紐育アスレティック・クラブの 3:21.3 に肉迫するの好記録を出して幸先のよいスタートを切つた。

次いでエール大學は一月十四日同じくホームプールに於てコーネル大學をも 60 對 15 を以つて撃破した。注目すべき記録左の通り。

五十碼自由形	23.8	バッド・ブリトン	(エール)
二百二十碼	2:13.8	ハワード・ジョンソン	( " )
二百碼平泳	2:27.4	エドワード・ゲスナー	( " )

### ◎ミシガン大學依然強し

昨年三月末全米インターカレッヂ室内大會に優勝して以來頼みに力量を向上したミシガン大學は、今年に入り益々強く昨年二回戦ひ二回共に 42 對 42 と引分の接戦を演じたオハイオ州大學をそのホームプールに収め之を 47 對 37 で撃破した。オハイオ州大學がホームプールで破れたのは一九三七年以來の事でミシガン大學の擡頭は注目に値する。一着の記録左の如し。

五十碼自由形	23.5	チャールズ・バーカー	(ミシガン)
百碼	52.6	ゼームズウエルシュ	( " )
二百二十碼	2:13.6	"	( " )
四百四十碼	4:56.4	"	( " )
百五十碼背泳	1:38.5	ウィリアム・ビーブ	( " )
二百碼平泳	2:26.3	ジョン・ヒギンズ	(オハイオ)
三百碼繼泳	3:02.0	ミシガン大學	
		(ビーブ、J. シャレット、G. シャレット)	
四百碼繼泳	3:41.2	ミシガン大學	
		(バーカー、ジリス、ウィリアムス、G. シャレット)	

#### 三米飛板飛込

1. アル・パートニック	(オハイオ)	152.85
2. アール・クラーク	( " )	151.57

### ◎エール・ミシガンに大敗す

次いで一月二十日ミシガン對エール二大學對校試合はホイットニイの 25 碼プールに於て行はれた。僅少の差を以つてするエールの勝利とは米國水泳通の豫想であつたが、意外にも 29 對 46 を以つてエールの大敗に終り米國水泳界を驚倒せしめた。然し乍らエール大學は、破れたりとはいへ各種目に強靱なる抵抗を示し、ミシガンを苦戦せしめポップ・キッス老いずの感を懷かせた。試合はスコアに見る程の差はなく殆んど全部タッチの差を以つて決したものでエールの不運の敗とでも言ふべきであらう。一二着の差で最大であつたのは四百四十碼に於ける三碼、次いで三百碼混繼泳に於ける二碼であつた。全九種目中七種目にタイトルを奪取して強敵を屠つたミシガン大學のコーチ、マット・マンの得意正に思ふべしである。

一着記録左の如し。

五十碼自由形	23.2	チャールズ・バーカー	(ミシガン)
百碼	53.1	ガス・シャレット	( " )
二百二十碼	2:12.0	ハワード・ジョンソン	(エール)
四百四十碼	4:55.2	ジェームズ・ウエルシュ	(ミシガン)
百五十碼背泳	1:38.1	ウィリアム・ビーブ	(ミシガン)
二百碼平泳	2:28.6	ジョン・シャレット	(ミシガン)
三百碼混繼泳	2:56.8	ミシガン大學	
		(ビーブ・J. シャレット・ウィリアムス)	
四百碼繼泳	3:31.8	ミシガン大學	
		(バーカー・ウィリアムス・ホルムス・G. シャレット)	
飛込	141.83	ゼームズ・クック	(エール)

### ◎ピーター・フキツク老い

#### ジャック・メデイカ職業トレーナーとなる

ミシガン大學は勁敵エール大學を屠つた翌日、全く軽い氣持で紐育に遠征、紐育アスレティック・クラブも 48 對 27 で破り此の處米國東海岸の強チームはミシガンの爲に總嘗めの有様である。記録は前日の緊張の後とて見るべきものはなかつたが只注目すべきは百米自由形の世界記録保持者として我國にも來朝したことのある名選手ピーター・フイック(紐育 A, C)が五十碼に於てミシガンのバーカーの爲に敗れ、百碼に於ては同じく G. シャレットと苦戦し、七十五碼迄に腕一つを先じられ、シャレットがターニングで滑つた爲にやつと勝利を拾つたといふ有様で、五十のバーカーのタイム 23.7 百のフイックのタイム 53.3 と聞く時、フイック既に老いたりの感が深い。亦我國競泳界に再三來朝し元氣を見せて居た、親し味深き米國の中距離王としてあまりにも知られて居たジャック・メデイカ君は今度コロンビヤ大學のコーチとなり、然も職業トレーナーとなつた。

# 従来個人別競泳廿傑記録表

(自100米——至400米自由形の部) 昭和15年1月1日現在

昔より現在迄の日本水上競技聯盟発表の五十米プールに於ける公認記録中より廿六種目の競泳五十傑表を作つて見たが其の内主なる種目の二十傑表だけ發表させて頂く事にした、表中のクラスは日本水上競技聯盟の昭和十四年度クラス銓衡規定に依る資格に當嵌めたもの、ラップタイムは何れも参考である、又同記録の際は先に作つたものを上位とし、二年以上繼續したものは更に上位とした。

昭和七年ロサンゼルスオリンピック制覇以後世界の覇を確保して譲らなかつただけあつて記録は殆ど、昭和七年以後に作られたるものを以て埋められてゐる。其の内高石選手の百米自由形のみは大正年間に作られた(當時百、二百自由形共世界第二位)のものが儼然として残つてゐる、同氏の強豪振りに驚嘆すると同時に二百米自由形に於ては、其の記録を昨年を以て、二十位以下に追越した水上日本の躍進は正に世界の驚異である。

## 100米自由形

順位	氏名	所屬	時間	ラップタイム	場所	クラス別	年月日
1	遊佐 正憲	日大	57.2	26.2	57.2	神宮 A	10-9-13
2	田口 正治	日本	57.5			ベルリン A	11-8-8
3	新井 茂雄	日本	57.7			" A	" "
4	宮崎 康二	日本	58.0	27.6	58.0	ロサンゼルス A	7-8-6
5	河石 達吾	日本	58.6	28.6	58.6	" B	7-8-7
6	志村 義久	早大	58.6	27.0	58.6	神宮 B	10-9-13
7	佐々木 猛	日大	58.6			振甫 B	13-6-26
8	高橋 成夫	日本	59.2	28.0	59.2	ロサンゼルス B	7-8-7
9	杉浦 重雄	日本	59.2			フタベス B	11-8-22
10	高石 勝男	早大	59.4	28.6	59.4	芝正 B	14-9-20
11	坂上安太郎	早大	59.6			神宮 B	8-9-16
12	平野 亮	日三中	59.8			" B	10-8-3
13	片岡寅次郎	稲泳會	1:00.0	28.2	1:00.0	" B	10-10-4
14	片山 兼吉	明大	1:00.0			" B	7-9-25
15	杉本 盛	日大	1:00.2			" C	9-9-16
16	横山 隆志	高知商	1:00.4			" C	5-8-16
17	豊田 久吉	日大	1:00.4			" C	7-9-25
18	長谷川 卯佐美	修道中	1:00.6			大阪 C	8-8-20
19	井上 茂	國大	1:00.6			神宮 C	10-8-5
20	五十嵐 伊市郎	早大	1:00.6			" C	11-9-19

新井君はデットスタートになつてから昭和十二年に一回昨年二回 57.8 を出してゐるがこれは遊佐君の日本記録 57.2 と同等或はそれ以上の記録と云はれてゐる、佐々木君の 58.6 も宮崎君の 58.0 に匹敵すると思ふ。尙ロサンゼルスオリンピック前の記録に佐田氏(明大)野田氏(慶大)の 1:01.4 (28.29 位)がある。

30 位	宮本武夫(早大)	1:01.4
40 位	藤田貞男(法大)	1:01.8
50 位	壺田重三(早大)	1:02.2

## 200米自由形

順位	氏名	所屬	時間	ラップタイム	場所	クラス別	年月日
1	新井 茂雄	立大	2:09.6	1:01.6	2:09.6	神宮 A	13-8-10

2	遊佐 正憲	日本	2:11.2	1:01.8	2:11.2	"	A 10-8-19
3	宮本 茂	稲泳會	2:13.6	1:04.2	2:13.6	"	B 14-8-13
4	杉浦 重雄	"	2:13.8	1:03.4	2:13.8	"	B 12-8-16
5	田口 正治	立大	2:14.2			"	B 10-9-15
6	鷺谷 光明	日大専	2:14.4			"	B 14-7-25
7	大横田 勉	明大	2:14.6	1:06.2	2:14.6	"	B 7-6-11
8	牧野 正藏	稲泳會	2:14.6			"	B 8-8-14
9	根上 博	立大	2:14.8			立教	B 10-9-17
10	石原田 愿	明大	2:15.0	1:03.6	2:15.0	神宮	B 10-8-5
11	横山 隆志	早大	2:15.2	1:05.8	2:15.2	"	C 7-9-25
12	寺田 登	日本	2:15.3			ロンドン	C 11-8-29
13	新聞 六炳	早大	2:15.4			神宮 C	9-9-14
14	杉本 盛	日大	2:15.4			神宮 C	8-8-12
15	佐々木 猛	日大	2:15.4			"	C 13-6-12
16	高橋 弘	慶大	2:15.6			"	C 13-6-5
17	平野 亮	日本	2:15.8	1:04.6	2:15.8	"	C 10-8-17
18	片岡寅次郎	早大	2:16.0	1:05.0	2:16.0	"	C 10-9-15
19	藤田 貞男	法大	2:16.6			"	C 11-9-20
20	津田 國男	大阪十合	2:16.6			"	C 14-9-24

高石 勝男	早大	2:16.8	1:07.2	2:16.8	玉川	大正昭和	15-9-7
			1:05.8	2:16.8	神宮	C	6-8-7

ロサンゼルス前の記録では佐田氏(明大)2:18.0 で 31 位野田氏(慶大)2:19.2 で 41 位となつて居り 2:20.0 を切つて居るものが 47 名居る

30 位	鶴 藤 俊 平(立大)	2:17.8
40 位	牧野 兵 庫(伊都中)	2:19.0
50 位	長谷川 卯佐美(修道中)	2:21.0

## 400米自由形

1	根上 博	立大	4:45.2	1:06.4	2:19.4	神宮 B	10-8-18
2	牧野 正藏	早大	4:45.4	1:06.4	2:18.8	"	B 10-9-14
3	鶴藤 俊平	日本	4:45.5	1:06.6	2:19.1	ベルリン B	11-8-18
4	新井 茂雄	立大	4:47.0	1:02.8	2:15.2	甲子園 B	13-8-20
5	宮本 茂	早大	4:47.2	1:05.4	1:17.4	神宮 B	14-7-25
6	天野 富勝	日大	4:47.4	1:05.8	2:19.0	甲子園 B	13-8-20
7	高橋 弘	慶大	4:48.0	—	2:22.4	神宮 B	13-9-18
8	石原田 愿	明大	4:48.0			"	B 10-8-3
9	田中 英作	稲泳會	4:48.4	1:05.6	2:18.6	"	B 14-8-13
10	北村久壽雄	高知商	4:49.6	1:07.8	2:21.2	"	B 8-8-12
11	大横田 勉	明大	4:50.4	1:08.0	2:22.2	"	B 7-6-12
12	横山 隆志	稲泳會	4:50.6			"	B "
13	寺田 登	慶大	4:50.8	1:06.0	2:20.6	"	B 10-9-14
14	本間 俊夫	立大	4:51.0			"	B 14-9-16
15	杉浦 重雄	稲泳會	4:51.6	1:05.8	2:20.2	"	B 12-8-15
16	鷺谷 光明	日大	4:52.4	1:07.0	2:20.8	"	B 14-8-13
17	新聞 六炳	日本	4:52.7			マニラ	B 9-5-18
18	堀 勝美	岐商	4:54.8			神宮 B	9-8-6
19	本田惣一郎	立大	4:54.8	1:08.4	2:22.8	"	B 10-9-13
20	津田 國男	大阪十合	4:55.0	1:06.8	—	"	B 14-8-12

古いところで(ロサンゼルス前)武村寅雄(明大)4:57.0 (24位)武林清(明大)5:02.4 (37位)等があり、5:00.0 以内で 31 名が泳いで居る。

30 位	岩田 務(岐商)	5:00.0
40 位	高石 勝男(早大)	5:03.4
50 位	松山 正一(中泉農)	5:05.0

# 便り 戦者 関係 聯盟



前略、河童の陸上りの冬と相成り何かと事務の方が御繁忙の事と遠察致します。

到着以來益々元氣にて任務に邁進最早銃聲を聞き乍ら安眠致し居ります、未だ水泳関係の人達には逢ひませんが今に逢ふ機会もある事と楽しみに致して居ります。南支とは云へ、やはり冬になると寒くこの頃では火がほしい日も度々あります、内地の様な感じもあります。南支の味もありなかなか感じも豊富です、では又、皆様宜敷しく。

## 南支派遣軍 竹林隆二少尉

拜啓 御無沙汰に打過ぎ居ります、皆様御健勝にて御活躍の事と存じます。小生も御蔭様にて頗る元氣にて軍務に服して居ります。

體位向上の喧しき折柄水泳界も多事多端な事と存じます。夏も終りに近く残暑の烈しさも大分衰へた事と存じます、北支も涼しくなりました、特に朝は清涼です。高粱が一丈以上も伸びて穂が風に揺れて居ります、遙かに御健康を祈ります。敬具

## 北支派遣軍 大井 忠紀

拜啓 甚だ申遅れました、水泳指導状況報告の御手紙頂きましたが昭和十二年末聖戦の一員に加わりて希望に副へぬのは残念です、然し乍ら上海戦のクリークに南京戦の水中作業或は渡河に水泳の必要を痛感して居ります。我工兵部隊の架橋、漕舟に今少し普及してゐるならば或は容易に出来る作業も多かつたらうと存じます。漢口の大水も然りです。渡河戦に水上隊に溺死せる姿を見る度日常必ず習ひ而して健康の爲め國防の爲め資すべき事を痛感します、小生も終身研究の目的で入會致度希望を以つて居ります。草々

## 中支派遣軍 岡村 勝敏

拜啓 聯盟の皆様御健在の事と存じます、先日は「水泳」を御送り下され有難ふ御座いました。

私は十月迄九州の聯隊に居りやつと横尾君圖師君が時々用ひて居る様な九州辯も板につきかけてゐた處十一月一日より甲幹としてこの學校に這入り都の空を眺めながら暮して居ります、來年六月頃迄居る豫定ですが外出も出来ないとの事で當分皆様とお會ひする事は出来ません。皆様の御奮闘を祈ります。

## 千葉陸軍防空學校 後藤 眞吉

御便り有難う。又雑誌水泳も御惠送下さいまして有難う。部隊名が先の野溝部隊で出てありましたので廣東からこちらの方へ廻送されて参りました。この便りがこちらへ到着する頃は御正月過だらうと思つて居りますが、こちらではまだ年末の二十一日來る春を思ひ、年老ゆるを思ひ、そゞろ淋しさを味つて居る仕末です。來年ともなれば僕も愈々爺さんの部類に屬する事になりますが、急に内地に歸る様な事にでもなれば浦島の二の舞を演じはしないかと思つて心配して居ります。

戦地に來て一年半、時には土方みたいな仕事もするし、又時には大工、女工、左官、井戸掘等の仕事もし、又時たまには猿飛佐助みたいな仕事、石川五右衛門みたいな仕事もして來ましたが、今は兵隊らしくない事務屋の事をして居ります。兵隊なら兵隊らしく人殺しの仕事をさして呉れたらよささうなもんだと思つて居りますが、矢張り思ふ様には参りません。

満期の話はないか……と言はれますが、こちらではそんな氣配は毛程もありません、まあ後一年位は失業せずに濟みさうです。

皆様も言はれる通り戦地の兵士には内地よりの便りが一番楽しいものです、然し戦地に來て永くなれば僕等としても便りの種が全々なくなるし銃後の人も面倒と思つてなかなか手紙をくれません、両親からさえも始は月に五、六回も來てゐた便りが今では月に一回來るか來ないか位のもんで、友人からの便り等は最初の五分の一位になつてしまいました。戦地に居る者又心細き限りならんや……です。

海南島では椰子の實が食べられる様になりました處によつては椰子の實をとりに行つて狙撃された等と云ふ話もありますが、僕の今居るところはそんなブツサウな所ではありません。夜毎夜毎に海南姑娘がシヤナリシヤナリと散歩し、有り余つた情熱をそこら一面に散布する様な戦地らしくない所です。

近頃は南海特有のモーンズーンが荒れて、氣温もぐつと下り寒さを覺ゆる様になりました。

この次には御正月に酒のんだ話でも御便りします皆さんによろしく。 南支派遣軍 藤原 豊

# ク ロ ー ル ..... 日本字名決定懸賞投票

1. ^{ハヤオヨキ}速泳      2. ^{ハヤカキ}速掻      3. ^{ヌキテ}拔手      4. ^{ハヤヌキテ}速拔手      5. ^{アシヌキテ}バタ足拔手

## 投票上の注意

- 必ず記名投票の事、學校又は團體にて協議の上團體名にて投票するも可
- 投票ノ切期日昭和十五年四月十五日限とす
- 用紙官製ハガキ一枚一人
- 番號及び投票者住所氏名は必ず記入水上聯盟宛送ること

## 聯 盟 日 誌

11月 5日	河童陸上運動會	豊	島	園
6日	水泳史研究委員會	中	央	亭
9日	ベストテン其ノ他記録讀合せ	事	務	所
10日	〃	事	務	所
11日	親 陸 旅 行	湯	ケ	島 方
13日	水泳誌68號全國發送			
14日	飛込競技委員會	事	務	所
18日	飛込競技委員會	事	務	所
20日	小學校委員會	事	務	所
20日	競泳池公認委員會	事	務	所
21日	理 事 會	事	務	所
29日	水泳史研究委員會	事	務	所
12月 15日	評 議 員 會	事	務	所
22日	水泳史研究委員會	事	務	所
	競泳池公認委員會	事	務	所
	水泳誌 69. 70. 71 特大號發行			
23日	理 事 會	事	務	所
27日	水泳史研究委員會	事	務	所
	比島體協ヨリ日本選手招聘電報アリ學業ノ關係上遠征不可ナル旨電打ツ			
28日	事 務 所 閉 ム			
1月 8日	事 務 所 開 ク			
	理 事 會	事	務	所
9日	重ネテ比島體協ヨリ學生以外ノ選手四名招聘シタキ旨電アリ			
10日	齋藤巍洋氏南米行送別會兼女子部委員會	新橋	太	田 屋
12日	在京代議員會兼齋藤、遊佐、葉室三選手送別會	中	央	亭
	比島體協宛選手派遣應ジ難キ旨電打ツ			
18日	正午熱海市市長事務所訪問、遠泳問題ニ付キ野田、大橋兩氏ト懇談			
	理 事 會	事	務	所
19日	飛込競技委員會	事	務	所
	飛込競技懇親會	銀座	明	菓
	學聯實行委員會	事	務	所
22日	女子部委員會	事	務	所
23日	日本女子中等大會ニ關スル東都女子中等學校懇談會	事	務	所
25日	水泳史研究委員會	事	務	所
26日	評 議 員 會	は	務	つ
	キツパース並ニ布哇A A U及日布時事社長宛日米對抗及布哇二世選手招聘ノ件、發信ス			
	藤田學聯名譽主事ニ召集令下ル			
29日	學聯飛込競技委員會	事	務	所
30日	學聯水球競技委員會	事	務	所
31日	藤田明氏送別會	幸		樂

日本水上競技  
聯盟機關雜誌

水 泳

第 7 2 號

昭和十五年 三月三十日 納本  
昭和十五年 四月 三日 發行

(日本水上競技聯盟代表)  
編輯兼印刷人 宍 道 洋 一

印刷所 大日本印刷株式會社  
牛込區市谷加賀町一の十二

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す (1年前金豫約  
は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581  
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所  
振替口座東京三九九一九番